

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	自然科学 (Natural science)		
担当者	加藤 裕美		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	プリントによる配布資料		

授業概要
<p>いままで化学及び生物を勉強していない人にも理解できる授業内容です。</p> <p>種々の物質はなにからできているのでしょうか？</p> <p>水(液体)は氷(固体)や蒸気(気体)に変化します。これは、なぜでしょう？</p> <p>わたしたちの体にとって毒になる物質は、どのようなものなのでしょうか？</p> <p>なお、教育機関で化学に関する研究、教育経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「生体分子の構造と機能」 生体を作る元素、生体分子の構造と特徴、物質代謝とエネルギーについて理解する。	「人体を構成する化学物質」 ・人体を構成する化学物質について説明ができる。 ・水素、炭素、酸素の原子記号が説明できる。	加藤 裕美
2	「化学の基礎知識」 生体を作る元素、生体分子の構造と特徴、物質代謝とエネルギーについて理解する。	「物質と化合物」 ・水や塩酸の化学式について説明することができる。	加藤 裕美
3	「原子構造」 種々の化学物質の物質質量および原子量について理解する。	「物質質量と原子量」 ・水素、炭素、酸素の原子量について説明することができる。	加藤 裕美
4	「元素」 物質を構成する基本単位である元素を理解する。	「周期表」 ・周期表の意味について説明できる。 ・水素、炭素、酸素の原子記号が説明できる。	加藤 裕美
5	「分子・分子量・原子」 分子、原子とその種類について理解する。	「分子量」 ・分子量について説明することができる。	加藤 裕美
6	「酸化還元反応」 酸化還元反応などの化学変化が起こる過程について理解する。	「酸化と還元」 ・気体における酸化還元反応について説明できる。	加藤 裕美

7	「pH（水素イオン濃度）①」 水溶液の性質（酸性・アルカリ性）の程度を示す単位について理解する。	「pH」 ・ pHについて説明することができる。	加藤 裕美
8	「pH（水素イオン濃度）②」 水溶液の性質（酸性・アルカリ性）の程度を示す単位について理解する。	「酸性とアルカリ性」 ・ 酸性の性質について説明することができる。 ・ アルカリ性の性質について説明することができる。	加藤 裕美
9	「モル濃度の計算」 物質の構成、化学結合、モル濃度計算について理解する。	「モル濃度計算」 ・ モル濃度の計算方法について説明することができる。 ・ pHについて説明することができる。	加藤 裕美
10	「生物の特徴」 生物学的な「生命の定義」について概要を理解する。	「細胞」 ・ 細胞の概略について説明できる。	加藤 裕美
11	「同化と異化」 エネルギー代謝における同化と異化について概要を理解する。	「同化・異化」 ・ エネルギー代謝における同化と異化について説明することができる。	加藤 裕美
12	「光合成と呼吸」 光合成による化学反応課程について概要を理解する。	「光合成」 ・ 光合成の化学式について説明できる。 ・ 人体と光合成の違いについて説明できる。	加藤 裕美
13	「遺伝子の構造と機能」 DNAの化学構造（チミンなど）について概要を理解する。	「DNAの基本構成要素」 ・ DNAの基本構成要素を塩基、リン酸などを用いて説明できる。	加藤 裕美
14	「蛋白質代謝（アミノ酸）」 蛋白質代謝の役割と蛋白質の変化について理解する。	「アミノ酸」 ・ 必須アミノ酸の種類と機能を説明できる。	加藤 裕美
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	加藤 裕美
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：高校レベルの化学・生物の知識を復習しておくこと 事後学習：基本となる細胞の機能などを理解することで人体の構造を把握する。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)	高校レベルの内容です。専門教科の基礎となります。 しっかりと学習してください。		

学科・年次	救急救命科 1年次	開講期間	前期
科目名	生化学 (Biochemistry)		
担当者	竹内 章夫		
単位数 (時間数)	1単位 (16時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書: 救急救命士標準テキスト改訂第11版 参考書: わかりやすい生化学 第3版・シンプル生化学 改訂第4版		

授業概要
我々は生命・身体の維持、成長のため種々の栄養素を取り入れ、不要のものを排泄する動的平衡状態にある。この生きるということを支えている物質について分子レベルでの理解を深めるため、生体を構成する糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と性質、およびこれら生体物質の代謝過程について講義する。
授業の目的 (意義)
人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「生化学とは」 生物に関係する物質の構造と反応に関する化学について理解する。	「人体における生体化学」 ・生体の構成物質が説明できる。 ・代謝による変化が説明できる。	竹内 章夫
2	「糖 質」 糖質の基本構造と性質・役割について理解する。	「糖質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・糖質の役割が説明できる。 ・代謝による変化が説明できる。	竹内 章夫
3	「脂 質」 脂質の種類・役割について理解する。	「脂質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・脂質の種類が説明できる。 ・脂質の役割が説明できる。	竹内 章夫
4	「蛋白質」 蛋白質の基本構造と役割について理解する。	「蛋白質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・アミノ酸の種類が説明できる。 ・蛋白質の役割が説明できる。	竹内 章夫
5	「核 酸」 核酸の種類と基本構造について理解する。	「核酸と遺伝」 救命士標準テキスト P.56 参照 ・核酸の構造について説明できる。 ・核酸の種類について説明できる。	竹内 章夫
6	「ビタミン」 ビタミンの種類と役割について理解する。	「ビタミンの機能」 救命士標準テキスト P.160 参照 ・脂溶性ビタミンの種類について説明できる。 ・水溶性ビタミンの種類 (B群、Cなど) を説明できる。	竹内 章夫

7	「ホルモン」 ホルモンの役割について理解する。	「内分泌の役割」 救命士標準テキストP.139 参照 ・ホルモンにおけるフィードバック機構について説明できる。	竹内 章夫
8	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	竹内 章夫
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：高校レベルの化学・生物の知識を復習しておくこと 事後学習：解剖生理学と生化学との関連性についてよく学習しておくこと。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」 ⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など		
その他（履修者へのアドバイス等）			

学科・年次	救急救命科 1年次	開講期間	前期
科目名	心理学 (Psychology)		
担当者	崎山 真理		
単位数 (時間数)	1単位 (16時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>心理学が人間の心理と行動を理解するために成立した科学である。本講義は、心理学の基礎知識を学ぶことによって、心理学的なものを見方を身につけ、こころのレジリエンスを高めることを目的とする。</p> <p>1) ストレスの概念とそのメカニズムを理解する。</p> <p>2) 現在生活におけるストレスマネジメントの必要性および方略を理解する。</p> <p>3) PTSD 概念とその状態を理解し、予防対策についての理解を深める。</p> <p>なお、大学院で心理学に関する研究経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「心理学総論」 心理学という学問について知り、本講義でどのようなことを学ぶのかを理解する。	「心理学と心の理解」 ・科学的に人の心を理解すること、相手の心を理解するためにどのような心理学的知識が求められるのかについてについて説明できる。	崎山 真理
2	「心理的発達」 人間の精神発達について学ぶ。様々な発達理論について理解する。	「発達心理学」 ・人間の精神がどのような過程を経て発達してくのかについて説明できる。	崎山 真理
3	「救急救命士としての接遇」 救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について理解する。	「インフォームドコンセント」 ・救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について説明できる。	崎山 真理
4	「救急救命士としての接遇」 傷病者に対するコミュニケーションの種類や手段の違いについて理解する。	「傷病者とのコミュニケーション」 ・救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について説明できる。	崎山 真理
5	「適応とストレス理論」 人にとってのストレスの概要と与える影響について理解する。	「ストレスケア」 ・ストレスが人に及ぼす影響とストレスケアについて説明できる。	崎山 真理

6	「災害時のストレス」 災害現場で求められる心理的支援や、その介入について理解する。	「ストレス障害」 ・緊急事態時の危機介入について知り、平時との精神状態の違いなどについて説明できる。	崎山 真理
7	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	崎山 真理
8	「まとめ」 科目認定試験の結果をふまえ復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救急救命士標準テキストに記載されている心理学の内容について説明できる。	崎山 真理
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：特記事項なし 事後学習：救急隊員によるストレスケアなどについて確認しながら学習する。		
関連科目	「心理学」⇒「救急現場コミュニケーション論」⇒「英語」⇒「人文科学」⇒「保健体育」⇒「シミュレーション実習Ⅲ」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他（履修者へのアドバイス等）			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	英語 (English)		
担当者	クアム ジェイ		
単位数 (時間数)	2単位 (30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	プリントによる配布資料		

授業概要
グループによるペアワークやゲームを加えながら授業を展開する。英語のみを使った質問形式とロールプレイによる会話形式であり、段階的な質問形式を用い会話を通して会話能力を学習していく。講師が一方向的に話す授業形式ではなく、会話の基本である『聞く』『話す』ことに重点が置いて学習していく。
授業の目的 (意義)
人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「English conversation (1)」 Birthdays/Review of simple present tense and future with "going to" *上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語のアルファベットを聞いて、どの文字かを説明できる。	クアム ジェイ
2	「English conversation (2)」 Holidays/Common items associated with holidays *上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・日常生活の身近な英単語を聞いて、その意味について説明できる。	クアム ジェイ
3	「English conversation (3)」 Organizing a party/Future "will" (decision-making) *上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・簡単な英文を聞いて、その内容を理解することができる。	クアム ジェイ
4	「English conversation (4)」 Eating out / Food words *上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で日常的なあいさつや簡単な会話ができる。	クアム ジェイ
5	「English conversation (5)」 Entertainment/Talking about preferences with "so do I" and "Neither do I" *上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で簡単な質問をしたり、相手の質問に答えたりすることができる。	クアム ジェイ

6	<p>「English conversation (6)」</p> <p>Movies / different kinds of movies and adjectives to describe them</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・英語で身近なことについて言うことができる。(時刻、日付、曜日、週末の予定等)</p>	クアム ジェイ
7	<p>「English conversation (7)」</p> <p>Toransportation / Questions with "How...?"</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・英語の写真やポスターなどから必要な情報を読み取ることができる。</p>	クアム ジェイ
8	<p>「English conversation (8)」</p> <p>Geographical features of the world / Geographical features ; Adjectives for describing size</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・英語で自分のことについて短い話をするすることができる。</p>	クアム ジェイ
9	<p>「English conversation (9)」</p> <p>Famous people/Review of simple past tense with time expressions</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・英語で日常生活の行動について言うことができる。</p>	クアム ジェイ
10	<p>「English conversation (10)」</p> <p>Major events in life / Important things people do</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・講師やクラスメートの問いかけに英語で答えることができる。</p>	クアム ジェイ
11	<p>「English conversation (11)」</p> <p>Shopping for and eating food/" How much/many " with uncountable and countable nouns</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・簡単な英会話やアナウンス、英語による道案内等を聞いて、理解することができる。</p>	クアム ジェイ
12	<p>「English conversation (12)」</p> <p>Recycling and the environment / Recyclable goods ; ways of helping the environment</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・教科書で読んだ内容等に関して、英語で自分の考えを述べることができる。</p>	クアム ジェイ
13	<p>「English conversation (13)」</p> <p>Comparing countries of the world / Comparative and superlative adjectives</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・自分のこと(将来の夢、悩み、うれしかったこと等)について、英語で話すことができる。</p>	クアム ジェイ
14	<p>「English conversation (14)」</p> <p>Apartments / Adjectives for describing rooms and apartments</p> <p>*上記の内容について理解する。</p>	<p>「English conversation (英会話)」</p> <p>・自分のこと(将来の夢、悩み、うれしかったこと等)について、英語で話すことができる。</p>	クアム ジェイ

15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	クアム ジェイ
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：高校レベルの英会話を復習しておく 事後学習：一般的な英会話を把握し、将来的に外国人の傷病者に対する対話を心掛ける。		
関連科目	「心理学」⇒「救急現場コミュニケーション論」⇒「英語」⇒「人文科学」⇒「保健体育」⇒ 「シミュレーション実習Ⅲ」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)	Don't be shy! Just go ahead and say it!		

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	人文科学 (humanities)		
担当者	勝見 ひろみ		
単位数(時間数)	1単位(16時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	プリントによる配布資料		

授業概要
<p>表現の基本である「聞く」「書く」「読む」「話す」ことに重点が置いて、自分の意志と感情を的確に発信する語彙力の強化、文章の構成や展開を記述に基づいて捉える読解力の強化、抽象的な言葉を具体的なものに置き換えて伝える伝達力の強化などを図る。また、傾聴の基本と話の要点をつかむ力を身につける。</p> <p>なお教育機関で人文科学に関する研究、教育経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。
関連する学科のDP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「読む力」 読む力の重要性を認識し、基本的なスキルを理解する。	「読解のための基礎」 ・文構造、指示語、接続詞などを正しくとらえ、文を読むことができる。 ・さまざまな新しい言葉に触れ、その言葉の意味について説明できる。	勝見 ひろみ
2		「読解の実際」 ・文章の情報を正確に読み解き、理解する方法について説明できる。 ・実際に長文を読み、要点を正しく読み取ることができる。	勝見 ひろみ
3	「書く力」 書く力の重要性を認識し、基本的なスキルを理解する。	「表現の方法」 ・長文をより伝わりやすくするための表現の方法について説明できる。	勝見 ひろみ
4		「論理的思考と構成」 ・文章の土台となる論理的な展開方法について説明できる。	勝見 ひろみ
5	「聞く力」 聞く力の重要性を認識し、基本的なスキルを理解する。	「傾聴の基本・論点の集約」 ・自分の先入観を排除し、肯定的な聞き方について説明できる。 ・相手の感情や意図を察する聞き方について説明できる。	勝見 ひろみ

		・相手の話に耳を傾け、話の論点を集約した聞き方について説明できる。	
6	「話す力」	「PREP法」 ・結論から始め、理由、具体例、再度結論の順に話す手法について説明できる。	勝見 ひろみ
7	話す力の重要性を認識し、基本的なスキルを理解する。	「敬語法」 ・「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を使い分けることができる。 ・ロールプレーを模した場面で、正しい敬語を使うことができる。	勝見 ひろみ
8	「科目認定試験」とまとめ	・これまでの学習内容について正しく説明でき、実際に活用できる。	勝見 ひろみ
成績評価方法	2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 授業課題の取り組み (30%) 科目認定試験 (70%) で評価する。 総合点 60%以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：活字に触れる機会を意識的に増やしておきましょう。 事後学習：学んだ内容を日常会話や文章表現で積極的に使うことが重要です。		
関連科目	「心理学」⇒「救急現場コミュニケーション論」⇒「英語」⇒「人文科学」⇒「保健体育」 ⇒「シミュレーション実習Ⅲ」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)	救急救命に関連する本や雑誌を読み、知識を得るとともに、新しい言葉や表現に触れる機会を増やし、就職試験に備えましょう。		

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	救急現場コミュニケーション論		
担当者	古谷 泰樹		
単位数（時間数）	1単位（16時間）	学習方法	講義・演習
教科書・参考書	救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>救急医療では一刻を争う状況下で、迅速かつ的確な医療を提供することが求められる。このような状況下で情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）を活用した「医療DX」を導入することで質の高い救急医療サービスの提供が可能になると考えられている。本講義においては情報通信技術（ICT）社会における倫理や各種法律を学ぶとともに、DX推進がもたらす救急医療の在り方と今後の展望と課題について理解する。</p> <p>なお情報処理推進機構における「ITパスポート」資格取得者であり、救急現場で実務経験のある救急救命士が授業を担当する。</p>
授業の目的（意義）
<p>情報社会における社会的規範、モラル及び倫理とともに関連法規を学習し、情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）を活用した最新の救急医療システムの知識と具体的な活用方法などを今後の救急医療DXの推進への理解と修得を目的とする。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な相互理解及び協調性のあるコミュニケーション能力を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	<p>「情報倫理」 情報社会における社会的規範、モラル及び倫理について理解する。</p>	<p>「情報倫理」 ① ビジネスと人権の情報倫理について説明できる。 ② 法律以外の遵守すべき倫理規定について説明できる。</p>	古谷 泰樹
2	<p>「情報に関連した法律」 企業等の規範に関する考え方を理解し、自らの行動規範について理解する。</p>	<p>「情報流通プラットフォーム対処法」 ① 情報流通プラットフォーム対処法の概要について説明できる。 ② ソーシャルメディアポリシーについて説明できる。</p>	古谷 泰樹
3	<p>「システム活用促進」 業務内における情報システム活用に必要となるデジタルリテラシーの習得について理解する。</p>	<p>「DX推進の目的など」 ① デジタルリテラシーの概要(適切なセキュリティ対策など)について説明できる。 ② デジタルトランスフォーメーション(DX)推進の目的について説明できる。</p>	古谷 泰樹

4	「世界における救急医療 DX 推進」 現在、海外で実用化されている救急 DX の現状と課題について理解する。	「救急医療 DX 推進の現状と課題」 ① 海外の「テレメディシン（遠隔診療）」の活用について説明できる。 ② 日本における救急医療 DX の現状と課題について自身の意見が説明できる。	古谷 泰樹
5	「救急医療における DX 推進(1)」 救急医療において今後、必要となる救急デジタルツールを活用した救急 DX の推進について理解する。	「マイナ救急」 ① マイナ救急による医療情報の活用について説明できる。 ② マイナ救急で参照可能な情報及びその取扱い・管理について説明できる。	古谷 泰樹
6	「救急医療における DX 推進(2)」 救急医療において今後、必要となる救急デジタルツールを活用した救急 DX の推進について理解する。	「救急医療情報システム」 ① 「NSER mobile」による救急医療情報システムについて説明できる。 ② 「JTAS」による救急医療情報システムについて説明できる。	古谷 泰樹
7	「傷病者の意志に沿った心肺蘇生法」 アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)をふまえた心肺蘇生法を望まない傷病者への対応について理解する。	「DNR 指示の現状と対応」 ① 傷病者の意志に沿って心肺蘇生法を中止する場合の留意点について説明できる。 ② 傷病者の意志に沿って心肺蘇生法を中止する場合の標準的対応手順について説明できる。	古谷 泰樹
8	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	古谷 泰樹
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：講義中に記録したノートを活用して学習ポイントを押さえておくこと。 事後学習：スマートデバイスやモニタリングシステムを実際に活用し、救急医療 DX 推進について身近なことからフィードバックを行うこと。		
関連科目	「心理学」⇒「救急現場コミュニケーション論」⇒「英語」⇒「人文科学」⇒「保健体育」⇒「シミュレーション実習Ⅲ」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	保健体育 (health and physical education)		
担当者	辻内 智樹		
単位数 (時間数)	1単位 (16時間)	学習方法	講義・実技
教科書・参考書	特記事項なし		

授業概要
<p>本授業では自己の健康・体力に対する認識を深めて、スポーツを楽しみながら体力の向上を図る。また、健康づくりを実践できるようにトレーニング科学の基礎講義も行う予定である。</p> <p>スポーツを生活の中うまく取り入れ、自分の健康を自己管理する習慣を学習する。</p> <p>なお、体育学修士として教育機関などで体育学に関する実務経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な相互理解及び協調性のあるコミュニケーション能力を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「講義ガイダンス」 学習内容および学習方法について理解する。	「ガイダンス」 ・実技場所の確認およびスマホアプリの取り扱いなどについて説明できる。	辻内 智樹
2	「体カテスト」 健康調査と体力測定を行い、今後の学習内容について理解する。	「健康調査と体力測定」 ・自らの健康状態および体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明できる。	辻内 智樹
3	「体力向上と企画書の作成」 健康調査と体力測定の結果から体力向上を目的とした企画書の作成について理解する。	「グループワークによる企画書作成」 ・自らの健康状態および体力を把握し、今後求められる体力増進の企画書の作成方法について説明できる。	辻内 智樹
4	「持久走(1)」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
5	「体育実技」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
6	「持久走(2)」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹

7	「持久走（3）」 トレーニング科学における基礎体力向上の 実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増 進法について説明することができる。	辻内 智樹
8	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	辻内 智樹
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて実技試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：無理のない程度に軽い運動を行い、ケガのないように心掛けてほしい。 事後学習：継続的に運動ができると良い。		
関連科目	「心理学」⇒「救急現場コミュニケーション論」⇒「英 語」⇒「人文科学」⇒「保健体育」⇒ 「シミュレーション実習Ⅲ」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)	体育実技を受講するときには、運動ができる服装で体調を整えて参加すること。		

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	解剖学・生理学 I (Human Anatomy and Physiology I)		
担当者	小足 有紀		
単位数 (時間数)	1 単位 (20 時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 11 版 参考書：からだが見える (人体の構造と機能) (株)メディアメディア発刊		

授業概要
<p>救急救命士に必要な呼吸系及び循環系の正常の解剖と生理を学ぶ。</p> <p>救急救命士が呼吸系及び循環系を学ぶことで人体に関する深い知識が求められる「疾病救急医学」「外傷救急医学」などの病態生理の把握に繋がっていくことになる。そのためにも呼吸調節の仕組みや循環動態の変化などの人体の構造と機能について学習していく。</p> <p>なお、医師 (医学博士) として医療機関などで眼科 (解剖生理学など) に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。</p> <p>*人体の構造と機能のうち呼吸系、循環系について系統的に学習する。</p>
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「呼吸系 (1)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割 について理解する。	「内呼吸と外呼吸」 標準テキスト改訂 11 版 P.89 参照 ・呼吸系の役割を内呼吸と外呼吸で説明できる。	小足 有紀
2	「呼吸系 (2)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割 について理解する。	「気道」 標準テキスト改訂 11 版 P.89 参照 ・気道の構造を上気道と下気道に分けて説明できる。 ・気道の機能を気管・気管支などに分けて説明できる。	小足 有紀
3	「呼吸系 (3)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割 について理解する。	「小児の気道」 標準テキスト改訂 11 版 P.92 参照 ・成人と小児の気道の構造と特徴の違いについて説明できる。	小足 有紀
4	「呼吸系 (4)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割 について理解する。	「胸郭・肺」 標準テキスト改訂 11 版 P.93 参照 ・呼吸を駆動する仕組みを胸郭、胸膜、胸腔、呼吸筋の解剖学的見地から説明できる。	小足 有紀
5	「呼吸系 (5)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割 について理解する。	「肺胞でのガス交換」 標準テキスト改訂 11 版 P.95 参照 ・肺でのガス交換の仕組みについて換気、血流の関係から説明できる。	小足 有紀

6	「循環系（1）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「心臓」標準テキスト改訂11版P.99参照 ・心臓の構造と機能について説明できる。 ・刺激電動系の経路について説明できる。	小足 有紀
7	「循環系（2）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「冠循環・脈管」標準テキスト改訂11版P.104参照 ・動脈・静脈・毛細血管・リンパ管の解剖と役割について説明できる。	小足 有紀
8	「循環系（3）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「循環の制御」標準テキスト改訂11版P.105参照 ・自律神経系（交感神経・副交感神経）による循環の制御について説明できる。	小足 有紀
9	「循環系（4）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「心臓のポンプ機能」標準テキスト改訂11版P.103参照 ・心臓のポンプ機能である前負荷と後負荷、心拍出量について説明できる。	小足 有紀
10	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小足 有紀
成績評価方法	出席は2/3以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100点）を行い、60点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストだけでなく、からだが見える「人体の構造と機能」などのイラストを参考に学習する。 事後学習：解剖学だけでなく、生理的な機能を今後の疾病救急医学や外傷救急医学に反映できるように継続的に学習する。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	解剖学・生理学Ⅱ (Human Anatomy and PhysiologyⅡ)		
担当者	益田 健史		
単位数 (時間数)	2単位 (30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版 参考書：からだが見える (人体の構造と機能) (株)メディアメディア発行		

授業概要
<p>人体の構造はどのようになっており、また人体のいろいろな部分はどのように働いて我々の生物活動を維持しているのかを学ぶ。人体の構造と機能の知識は救急救命医学の基礎を成すものであるから、この学科は救急救命科のほかの科目を勉強するに先立ってしっかり習得しなければならない。</p> <p>なお、医師として医療機関などで基礎医学 (主に病理学) に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。</p> <p>*人体の構造と機能のうち神経系、感覚器、内分泌系分野について系統的に学習する。</p>
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「中枢神経系 (1)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「大脳の構造と機能」 標準テキスト改訂 11 版 P.70 参照 ・大脳表面の運動野、感覚野、言語中枢などの機能について説明できる。	益田 健史
2	「中枢神経系 (2)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「間脳などの構造と機能」 テキスト改訂 11 版 P.71 参照 ・脳幹の 3 つの機能について説明できる。 ・小脳の機能について概略を説明できる。	益田 健史
3	「中枢神経系 (3)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脊髄などの構造」 標準テキスト改訂 11 版 P.72 参照 ・脊髄における錐体路の位置について説明できる。	益田 健史
4	「中枢神経系 (4)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脳脊髄液の構造」 標準テキスト改訂 11 版 P.72 参照 ・髄液の流れの方向と位置について説明できる。	益田 健史
5	「末梢神経系・伝導路」 末梢神経系および伝導路の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脳神経などの構造」 標準テキスト改訂 11 版 P.74 参照 ・脳神経 (12 神経) のそれぞれの機能について説明できる。	益田 健史

6	<p>「自律神経系」</p> <p>自律神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「自律神経系の構造」 標準テキスト改訂 11 版 P.77 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 自律神経の分布と機能について説明できる。 	益田 健史
7	<p>「脳循環・意識（１）」</p> <p>脳循環および意識の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「脳循環」 標準テキスト改訂 11 版 P.78 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ウイリス動脈輪の構成について説明できる。 脳の酸素消費量について説明できる。 	益田 健史
8	<p>「脳循環・意識（２）」</p> <p>脳循環および意識の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「頭蓋内圧とその調節」 標準テキスト改訂 11 版 P.80 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 脳灌流圧の構成式について説明できる。 意識（覚醒中枢）の位置と機能について説明できる。 	益田 健史
9	<p>「感覚系（１）」</p> <p>感覚系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「聴覚・平衡感覚など」 標準テキスト改訂 11 版 P.85 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴覚器の構造と機能について説明できる。 	益田 健史
10	<p>「感覚系（２）」</p> <p>感覚系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「視覚など」 標準テキスト改訂 11 版 P.83 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚器の構造と機能について説明できる。 	益田 健史
11	<p>「内分泌系（１）」</p> <p>内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「下垂体前葉・後葉」 標準テキスト改訂 11 版 P.126 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 下垂体後葉より分泌されるホルモンについて説明できる。 	益田 健史
12	<p>「内分泌系（２）」</p> <p>内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「甲状腺・副甲状腺」 標準テキスト改訂 11 版 P.128 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 甲状腺より分泌されるホルモンの機能について説明できる。 	益田 健史
13	<p>「内分泌系（３）」</p> <p>内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「副腎・ラ氏島など」 標準テキスト改訂 11 版 P.129 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 血糖調節を行うホルモンの名称、分泌器官、役割について説明できる。 	益田 健史
14	<p>「内分泌系（４）」</p> <p>内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。</p>	<p>「性腺など」 標準テキスト改訂 11 版 P.129 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の性周期におけるホルモンの分泌について説明できる。 	益田 健史
15	<p>「科目認定試験」</p>	<p>これまでの学習内容について正しく説明できる。</p>	益田 健史
成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。</p> <p>最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。</p>		
準備学習/事後学習	<p>準備学習：救急救命士標準テキストだけでなく、からだが見える「人体の構造と機能」などのイラストを参考に学習する。</p> <p>事後学習：今後の疾病救急医学や外傷救急医学に反映できるように継続的に学習する。</p>		
関連科目	<p>「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など</p>		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	解剖学・生理学Ⅲ (Human Anatomy and Physiology Ⅲ)		
担当者	加藤 裕美		
単位数 (時間数)	2単位 (30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版 参考書：からだが見える (人体の構造と機能) (株)メディアメディア発行		

授業概要
<p>人体の構造はどのようになっており、また人体のいろいろな部分はどのように働いて我々の生物活動を維持しているのかを学ぶ。人体の構造と機能の知識は救急救命医学の基礎を成すものであるから、この学科は救急救命科のほかの科目を勉強するに先立ってしっかり習得しなければならない。</p> <p>なお、歯科医師として医療機関などで解剖学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。</p> <p>*人体の構造と機能のうち概論、生殖器系、血液・免疫系、消化器系、筋・骨格系などについて系統的に学習する。</p>
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「生命の維持」 5種類の栄養素を列挙し、それぞれの役割について理解する。	「栄養素」 標準テキスト改訂 11 版 P.148 ・糖質 (炭水化物) の構成と基礎代謝のシステムについて説明できる。	加藤 裕美
2	「生命の維持」 恒常性維持に関する酸塩基平衡、浸透圧などの機能について理解する。	「酸塩基平衡」 標準テキスト改訂 11 版 P.152 ・酸塩基平衡の役割とその調節について説明できる。	加藤 裕美
3	「生殖器系 (1)」 生殖器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「男性生殖器」 標準テキスト改訂 11 版 P.120 ・男性生殖器の解剖と機能について説明できる。	加藤 裕美
4	「生殖器系 (2)」 生殖器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「女性生殖器」 標準テキスト改訂 11 版 P.121 ・女性生殖器の解剖と機能について説明できる。	加藤 裕美
5	「生殖器系 (3)」 生殖器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「性周期と月経」 標準テキスト改訂 11 版 P.123 ・性周期に関するホルモンについて説明できる。 ・卵巣の周期的変化について説明できる。	加藤 裕美
6	「血液・免疫系 (1)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血液の成分・役割」 標準テキスト改訂 11 版 P.131 ・血液系の役割 (酸素と二酸化炭素の運搬など) について説明できる。	加藤 裕美

7	「血液・免疫系（2）」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血球など」 標準テキスト改訂 11 版 P.132 ・赤血球、白血球、血小板の機能について説明できる。	加藤 裕美
8	「血液・免疫系（3）」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血液型・凝固」 標準テキスト改訂 11 版 P.134 ・A B O 式血液型の表検査と裏検査について説明できる。 ・一次止血および二次止血の機序について説明できる。	加藤 裕美
9	「血液・免疫系（4）」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「免疫・アレルギー」 標準テキスト改訂 11 版 P.136 ・特異的免疫の仕組みについて説明できる。 ・能動免疫と受動免疫の仕組みについて説明できる。	加藤 裕美
10	「消化器系（1）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「消化管」 標準テキスト改訂 11 版 P.108 ・口腔、食道、胃の構造と機能について説明できる。	加藤 裕美
11	「消化器系（2）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「消化管」 標準テキスト改訂 11 版 P.111 ・小腸、大腸の構造と機能について説明できる。	加藤 裕美
12	「消化器系（3）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「肝臓・胆のう」 標準テキスト改訂 11 版 P.113 ・肝臓の役割と解剖について説明できる。 ・胆のう系の役割と解剖について説明できる。	加藤 裕美
13	「消化器系（4）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「膵臓・脾臓」 標準テキスト改訂 11 版 P.115 ・膵臓の役割と解剖について説明できる。 ・膵臓の内分泌機能と外分泌機能について説明できる。	加藤 裕美
14	「筋・骨格系」 筋・骨格系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「骨格筋・骨」 標準テキスト改訂 11 版 P.138 ・主な骨格筋について説明できる。 ・筋収縮の仕組みについて説明できる。	加藤 裕美
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	加藤 裕美
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストだけでなく、からだが見える「人体の構造と機能」などのイラストを参考に学習する。 事後学習：今後の疾病救急医学や外傷救急医学に反映できるように継続的に学習する。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	病理学・法医学 — 病理学分野 — (Pathology)		
担当者	益田 健史		
単位数 (時間数)	2単位 (40時間 : 32時間分)	学習方法	講義
教科書・参考書	救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>病理学は疾患の基本を扱うことから、分野を問わず医療に関わる者にとって欠かすことの出来ない学問体系である。しかし他の基礎医学と比較すると全てのヒト疾患をカバーしなくてはならず、その範囲は極めて広い。この講義では、個々の疾病を掘り下げるのではなく、病理学総論を効率よく分かりやすく学び、理解することを目標とする。なお、医師として医療機関などで基礎医学 (主に病理学) に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科の DP
<p>救急救命士として必要な医学的な基礎知識を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	<p>「疾患(1)」</p> <p>疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。</p>	<p>「遺伝性疾患」 標準テキスト改訂 11 版 P.155 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダウン症候群について説明できる。 ・ターナー症候群について説明できる。 	益田 健史
2	<p>「疾患(2)」</p> <p>疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。</p>	<p>「先天障害など」 標準テキスト改訂 11 版 P.156 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先天性風疹症候群について説明できる。 ・ダウン症候群について説明できる。 	益田 健史
3	<p>「疾患(3)」</p> <p>疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。</p>	<p>「疾病の予防」 標準テキスト改訂 11 版 P.158 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次予防、二次予防、三次予防の具体例とその内容について説明できる。 	益田 健史
4	<p>「細胞障害(1)」</p> <p>退行性病変と進行性病変について理解する。</p>	<p>「細胞障害と死」 標準テキスト改訂 11 版 P.160 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壊死について説明できる。 ・アポトーシスについて説明できる。 	益田 健史
5	<p>「細胞障害(2)」</p> <p>退行性病変と進行性病変について理解する。</p>	<p>「変性」 標準テキスト改訂 11 版 P.161 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変性について説明できる。 ・萎縮について説明できる。 	益田 健史
6	<p>「炎症(1)」</p> <p>炎症の定義と原因について理解する。</p>	<p>「炎症」 標準テキスト改訂 11 版 P.164 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎症の四徴候について説明できる。 	益田 健史

7	「炎症（2）」 炎症の定義と原因について理解する。	「炎症」標準テキスト改訂11版P.165参照 ・炎症反応について説明できる。	益田 健史
8	「感染（1）」 感染症の定義と原因について理解する。	「感染症」標準テキスト改訂11版P.167参照 ・外毒素と内毒素について説明できる。 ・微生物の種類について説明できる。	益田 健史
9	「感染（2）」 感染症の定義と原因について理解する。	「感染の成り立ち」標準テキスト改訂11版P.169参照 ・感染経路について説明できる。 ・日和見感染症について説明できる。	益田 健史
10	「循環障害（1）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「虚血・うっ血」標準テキスト改訂11版P.171参照 ・虚血と梗塞の違いについて説明できる。 ・うっ血と充血の違いについて説明できる。	益田 健史
11	「循環障害（2）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「出血・血栓と塞栓」標準テキスト改訂11版P.173参照 ・血栓と塞栓の違いについて説明できる。	益田 健史
12	「循環障害（3）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「浮腫」標準テキスト改訂11版P.172参照 ・浮腫の発生と代表的な疾患について説明できる。 ・毛細血管内外における水分移動について説明できる。	益田 健史
13	「腫瘍（1）」 腫瘍の種類、発がんの仕組みなどについて理解する。	「腫瘍の分類」標準テキスト改訂11版P.176参照 ・良性と悪性の違いについて説明できる。	益田 健史
14	「腫瘍（2）」 腫瘍の種類、発がんの仕組みなどについて理解する。	「腫瘍の特徴」標準テキスト改訂11版P.177参照 ・悪性腫瘍の転移について説明できる。	益田 健史
15	「代謝障害（1）」 代謝障害の種類、病態について理解する。	「電解質の異常」標準テキスト改訂11版P.608参照 ・高ナトリウム血症の原因、症状について説明できる。 ・高カリウム血症の原因、症状について説明できる。	益田 健史
16	「代謝障害（2）」 代謝障害の種類、病態について理解する。	「酸塩基平衡異常」標準テキスト改訂11版P.610参照 ・アシドーシスとアルカローシスについて説明できる。	益田 健史
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 筆記試験の内訳 病理学分野 76 点＋法医学分野 24 点＝合計 100 点満点		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	病理学・法医学 — 法医学分野 — (Pathology)		
担当者	妹尾 洋		
単位数 (時間数)	2単位 (40時間:8時間分)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト(第11版) 8 損傷 & 9 死		

授業概要
<p>疾患のうち、特に外傷の起こり方と起こった傷の違いを認識する。また交通事故に多くみられる損傷も勉強する。</p> <p>また、一般的に人の死を考察し、自然の経過で死のあと人の組織がどう変化して行くのかを学ぶ。</p> <p>なお、医師(医学博士)として研究機関などで法医学(司法解剖)に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	<p>「創傷治癒」</p> <p>一次治癒・二次治癒について理解する。</p>	<p>「創傷・骨折の治癒」 標準テキスト改訂11版P.181参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次治癒と二次治癒の違いが説明できる。 	妹尾 洋
2	<p>「損傷の種類」</p> <p>鋭器損傷・鈍器損傷などについて理解する。</p>	<p>「創傷の分類」 救命士標準テキストP.693参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切創の特徴について説明できる。 ・杖創の特徴について説明できる。 	妹尾 洋
3	<p>「死の概念・死の判定・死亡原因」</p> <p>心臓死・脳死について理解する。</p>	<p>「心臓死・脳死など」 救命士標準テキストP.184参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓死の三徴候について説明できる。 ・心臓死と脳死の違いについて説明できる。 	妹尾 洋
4	<p>「死体現象」</p> <p>主な死体現象について理解する。</p>	<p>「早期死体現象など」 救命士標準テキストP.184参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死斑の特徴について説明できる。 ・死後硬直の特徴について説明できる。 	妹尾 洋
成績評価方法	<p>出席は2/3以上の出席をもって試験の受験を可とする。</p> <p>最終講義にて筆記試験(100点)を行い、60点以上を合格とする。</p> <p>筆記試験の内訳 病理学分野76点+法医学分野24点=合計100点満点</p>		
準備学習/事後学習	<p>準備学習:救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。</p> <p>事後学習:国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。</p> <p>特に「創傷の種類」は救急現場でも申し送りなどで幅広く用いるために理解する。</p>		

関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」など
その他 (履修者へのアドバイス等)	

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後 期
科目名	保健医療制度・社会保障と社会福祉 (Public Health and Social Security)		
担当者	平松 礼司		
単位数 (時間数)	2 単位 (40 時間)	学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 11 版 参考書：わかりやすい公衆衛生学 (第 4 版)・国民衛生の動向		

授業概要
<p>個人及び集団の健康の維持・増進を目的として、健康を脅かす要因について解説するとともに、疾病の予防についても講義していく。また、人の健康を脅かす要因は年齢により異なるため、乳幼児から児童の学校保健、労働衛生、高齢者対策にいたるまで幅広く年齢別に講義する。さらに現在の少子高齢社会では医療費の問題を始め社会保障費に大きな影響のあること及び救急救命士が持つべき生命倫理についても講義していく。</p> <p>なお、薬剤師 (薬学博士) として研究機関などで公衆衛生学などに関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な基礎知識を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「公衆衛生 (序論)」 公衆衛生の定義、仕組みなどについて理解する。	「公衆衛生の定義」 標準テキスト改訂 11 版 P.18 参照 ・「公衆衛生」について説明できる。	平松 礼司
2	「公衆衛生の仕組み」 健康の定義について理解する。	「健康の定義」 標準テキスト改訂 11 版 P.18 参照 ・「健康」について説明できる。	平松 礼司
3	「医療を取り巻く環境」 人口構造の変化について理解する。	「人口構造の変化」 標準テキスト改訂 11 版 P.21 参照 ・少子高齢社会の要因について説明できる。 ・死亡順位 (1 位～10 位) について説明できる	平松 礼司
4	「医療を取り巻く環境」 疾病構造の変化について理解する。	「疾病構造の変化」 標準テキスト改訂 11 版 P.23 参照 ・死因と推移について説明できる。 ・生活習慣病による疾病構造の変化を説明できる。	平松 礼司
5	「医療を取り巻く環境」 疾病構造の変化について理解する。	「感染症の状況」 標準テキスト改訂 11 版 P.26 参照 ・感染症における疾病構造の変化を説明できる。 ・新型コロナウイルス感染症の特徴について説明できる。	平松 礼司

6	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「医療機関のあり方」 標準テキスト改訂 11 版 P.31 参照 ・病院と診療所の違いについて説明できる。	平松 礼司
7	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「在宅医療など」 標準テキスト改訂 11 版 P.28 参照 ・在宅医療の内容について説明できる。 ・地域包括ケアについて説明できる。	平松 礼司
8	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「医療法と医療計画」 標準テキスト改訂 11 版 P.27 参照 ・5 疾病 6 事業について説明できる。 ・医療従事者の業務内容について説明できる。	平松 礼司
9	「環境保健の仕組み」 食品衛生および公害と環境について理解する。	「食品衛生」 標準テキスト改訂 11 版 P.30 参照 ・最も多い食中毒の原因について説明できる。	平松 礼司
10	「労働衛生の仕組みなど」 労働衛生・学校保健・母子保健を支える仕組みなどについて理解する。	「労働衛生など」 標準テキスト改訂 11 版 P.31 参照 ・労働者災害補償保険と健康保険の違いについて説明できる。	平松 礼司
11	「高齢者・精神保健福祉を支える仕組み」 高齢者などを支える仕組みについて理解する。	「精神保健福祉法など」 標準テキスト改訂 11 版 P.36 参照 ・精神保健福祉法における入院形態について説明できる。	平松 礼司
12	「社会保障と社会福祉」 社会保障の仕組み、各種保険制度について	「社会保障・社会福祉」 標準テキスト改訂 11 版 P.42 参照 ・国家扶助の概要について説明できる。 ・福祉事務所の役割について説明できる。	平松 礼司
13	「社会保険と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「介護保険制度」 標準テキスト改訂 11 版 P.40 参照 ・第 1 号被保険者と第 2 号被保険者の違いについて説明できる。	平松 礼司
14	「社会保険と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「年金保険制度」 標準テキスト改訂 11 版 P.41 参照 ・国民年金（基礎年金）と厚生年金保険について説明できる。	平松 礼司
15	「社会福祉と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「生活保護・児童福祉」 標準テキスト改訂 11 版 P.47 参照 ・生活保護法の扶助内容について説明できる。 ・高齢者、児童虐待の種類について説明できる。	平松 礼司
16	「人間と人間生活」 救命士に求められる「人間とは何か」という思考について理解する。	「人間の身体と心」 標準テキスト改訂 11 版 P.4 参照 ・人間の「身体」と「心」について概要を説明できる。	平松 礼司
17	「科学的思考の基礎」 救命士に求められる科学的思考の基礎について理解する。	「科学的思考」 標準テキスト改訂 11 版 P.6 参照 ・科学における「客観性」について概要を説明できる。	平松 礼司
18	「生命倫理と医の倫理」 救命士に求められる生命倫理の基礎について理解する。	「生命倫理に関する原則」 テキスト改訂 11 版 P.10 参照 ・生命倫理の 4 つの原則について概要を説明できる。 ・インフォームドコンセントについて説明できる	平松 礼司

19	「救急救命士の職業倫理」 救命士に求められる職業倫理の基礎について理解する。	「救急救命士の職業倫理」テキスト改訂11版P.13参照 ・救急救命士の責務について概要を説明できる。 ・救急救命士の職業倫理について説明できる	平松 礼司
20	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	平松 礼司
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「病院前医学概論」⇒「保健医療制度・社会保障と社会福祉」⇒「検査/放射線医学」⇒「薬理学」⇒「病院内救急救命士概論」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)	公衆衛生に関する問題は、我が国ばかりではなく国際的な問題として拡がっている。これらの問題に関心を持ち、講義とともに新聞等の正確なメディアの情報から積極的に理解していく姿勢が大切である。		

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	病院前医学概論 (Introduction to Prehospital Medicine)		
担当者	石河 康司 大竹 宗也		
単位数 (時間数)	1単位 (40時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書: 救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>救急救命士の役割、責任をよく認識し、それに必要な法律・救急医療体制・病院前救護体制などにつき熟知すること。また、医療従業者の一員として生命倫理についても知識を身につけてください。その上、危惧されている地震発生時などの災害医療についても対応できる知識をつけてください。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急医療に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>生命倫理と医の倫理 (インフォームド・コンセントを含む) の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。</p>
関連する学科の DP
<p>救急救命士として必要な医学的な基礎知識を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	<p>「生命倫理と医の倫理」</p> <p>日常的な業務における倫理的な意義について理解する。</p>	<p>「生命倫理の原則」 標準テキスト改訂11版P.10参照</p> <p>・救急救命士における「善行の法則」について具体例をふまえて説明できる。</p>	石河 康司
2	<p>「生命倫理と医の倫理」</p> <p>日常的な業務における倫理的な意義について理解する。</p>	<p>「傷病者の権利など」 標準テキスト改訂11版P.13参照</p> <p>・救急医療におけるインフォームド・コンセントの特徴について説明できる。</p>	石河 康司
3	<p>「救急医療体制」</p> <p>わが国の救急搬送の現状について理解する。</p>	<p>「救急医療体制の概要」 標準テキスト改訂11版P.208参照</p> <p>・救命の連鎖について説明できる。</p> <p>・救急搬送体制の種類について説明できる。</p>	石河 康司
4	<p>「救急医療体制」</p> <p>わが国の救急搬送の現状について理解する。</p>	<p>「病院前救護体制」 標準テキスト改訂11版P.212参照</p> <p>・救急救命士の誕生について説明できる。</p> <p>・わが国の救急業務の現状について説明できる。</p>	石河 康司
5	<p>「病院前医療体制」</p> <p>わが国の病院前医療体制について理解する。</p>	<p>「救急受け入れ体制」 標準テキスト改訂11版P.216参照</p> <p>・初期、二次、三次の役割と要件について説明できる。</p> <p>・周産期救急医療体制などについて説明できる。</p>	石河 康司

6	「病院前医療体制」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「メディカルコントロール」 標準テキスト改訂 11 版 P.228 参照 ・メディカルコントロールの概念、コア業務、具体的な内容などについて説明できる。	石河 康司
7	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「災害医療の概念」 標準テキスト改訂 11 版 P.222 参照 ・災害の概念、分類について説明できる。 ・CSCATTT の内容について説明できる。	石河 康司
8	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「トリアージ」 標準テキスト改訂 11 版 P.233 参照 ・START 変法について説明できる。 ・PAT 法について説明できる。	石河 康司
9	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「大規模災害」 標準テキスト改訂 11 版 P.225 参照 ・DMAT の構成や活動内容について説明できる。 ・要配慮者（災害弱者）について説明できる。	石河 康司
10	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「特殊災害」 標準テキスト改訂 11 版 P.225 参照 ・CBRNE 災害の内容について説明できる。 ・ゾーニングについて説明できる。	石河 康司
11	「消防機関における救急活動の流れ」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「受信と通信体制」 標準テキスト改訂 11 版 P.236 参照 ・通信指令員の口頭指導について説明できる。 ・救急搬送時の医療機関への報告内容を説明できる。	大竹 宗也
12	「消防機関における救急活動の流れ」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「救急活動の記録」 標準テキスト改訂 11 版 P.243 参照 ・救急活動記録表と救急救命処置録、ウツタイン様式の違いについて説明できる。	大竹 宗也
13	「救急活動時のコミュニケーション」 コミュニケーションをとる際の注意点について説明できる	「接遇など」 標準テキスト改訂 11 版 P.246 参照 ・コミュニケーションの種類が説明できる。 ・コミュニケーションの手段について説明できる。	大竹 宗也
14	「救急活動時のコミュニケーション」 コミュニケーションをとる際の注意点について説明できる	「インフォームド・コンセント」 標準テキスト改訂 11 版 P.249 参照 ・インフォームド・コンセントについて説明できる。 ・DNAR 指示時の対応について説明できる。	大竹 宗也
15	「救命士に関連する法令」 救急救命士法及び救命士に関連した法令について理解する。	「救急救命士法など」 標準テキスト改訂 11 版 P.255 参照 ・救急救命士法の目的と概要について説明できる。 ・救急救命処置の定義などについて説明できる。	大竹 宗也
16	「安全管理と事故対応」 救急救命士における安全管理と事故対応について理解する。	「インシデントとアクシデント」 改訂 11 版 P.271 ・医療事故と医療過誤の違いについて説明できる。 ・ハインリッヒの法則について説明できる。	大竹 宗也
17	「感染対策」 標準予防策の意義と内容および救急車内の消毒方法などについて理解する。	「標準予防策」 標準テキスト改訂 11 版 P.279 参照 ・標準予防策について説明できる。 ・清潔と不潔の違いについて説明できる。	大竹 宗也
18	「ストレスに対するマネージメント」 救急活動でのストレスへのマネージメントなどについて理解する。	「救急活動でのストレス」 テキスト改訂 11 版 P.292 参照 ・デフィージングとデブリーフィングの違いについて説明できる。	大竹 宗也

19	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大竹 宗也
20	「試験の解答・解説」	試験フィードバック後にこれまでの学習内容について正しく説明できる。	石河 康司 大竹 宗也
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「病院前医学概論」⇒「保健医療制度・社会保障と社会福祉」⇒「検査/放射線医学」⇒「薬理学」⇒「病院内救急救命士概論」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」		
その他 (履修者へのアドバイス等)	目指す救急救命士の立場を理解し、必要なものをしっかりと身につけて下さい。		

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	救急救命処置概論 I 【 Introduction to Emergency Medical Treatment I 】		
担当者	石河 康司		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>救急救命士が現場で行う救急救命処置の基本技術の理論と実際について講義する。</p> <p>また特定行為の根拠を学び、観察から処置の基本技術の理論と実際について講義する。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的（意義）
<p>生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的な考え方を理解する。</p> <p>地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。</p>
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「資器材による観察」 資器材の取扱いを理解する。	「パルスオキシメータ」 標準テキスト改訂11版 P.335～336 ・使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について、それぞれ説明できる。	石河 康司
2	「資器材による観察」 資器材の取扱いを理解する。	「血糖測定器」 標準テキスト改訂11版 P.344～346 ・使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について、それぞれ説明できる。	石河 康司
3	「救急救命士が行う処置」 それぞれの処置について理解する。	「用手的気道確保」 標準テキスト改訂11版 P.347～349 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
4	「救急救命士が行う処置」 それぞれの処置について理解する。	「声門上気道デバイス」 テキスト改訂11版 P.354～358 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
5	「気管挿管」 気管挿管について理解する。	「気管挿管を用いた気道確保」 改訂11版 P.358～367 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司

6	「酸素投与」 気管吸引、酸素投与の方法を理解する。	「リザーバ付フェイスマスク」 改訂 11 版 P371～372 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
7	「胸骨圧迫」「AED」 胸骨圧迫の方法、AED の取扱いなどについて理解する。	「胸骨圧迫・AED」 標準テキスト改訂 11 版 P375～383 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
8	「静脈路確保と輸液」 静脈路確保と輸液の取扱いを理解する。	「静脈路確保と輸液プロトコール」 P383～389 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
9	「ブドウ糖の投与」「体位管理」 ブドウ糖の投与、体位管理の方法を理解する。	「血糖測定とブドウ糖溶液の投与」 改訂 11 版 P392～395 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
10	「止血」「創傷処置」 創傷処置、止血、固定の方法を理解する。	「直接圧迫止血」「止血帯止血法」 改訂 11 版 P399～405 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
11	「救急蘇生法」 蘇生ガイドラインについて理解する。	「成人・小児・乳児の救急蘇生法」 P418～427 ・心肺蘇生のプロトコール、アルゴリズムについて説明できる。	石河 康司
12	「在宅療法継続中の処置」 在宅療法継続中の傷病者の処置を理解する。	「在宅酸素療法」 改訂 11 版 P428～434 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
13	「傷病者搬送（1）」 傷病者搬送の方法を理解する。	「体位変換」 標準テキスト改訂 11 版 P395～398 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
14	「傷病者搬送（2）」 傷病者搬送の方法を理解する。	「徒手搬送」 標準テキスト改訂 11 版 P435～441 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	石河 康司
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」 など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	観察と評価 (Observation and Evaluation)		
担当者	廣崎 英和		
単位数 (時間数)	1単位 (20時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>1. 生命徴候 (バイタルサイン) について理解し、その観察と評価を実際に行う事ができる。</p> <p>2. 呼吸・循環・意識についてそれらの正常な状態 (正常値) を知り、異常な場合にはどのような異常かを観察・指摘し、判断することができる。</p> <p>3. 運動・知覚・言語について正常な状態を理解し、異常な場合にはどのような異常かを指摘し判断できる。</p> <p>4. 人体の各部位 (頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢など) の観察が実行でき、異常があればそれを指摘し判断することができる。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急医療に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>生命倫理と医の倫理 (インフォームドコンセントを含む) の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。</p>
関連する学科の DP
<p>救急救命士として必要な総合的な観察力、判断力、臨床推論能力を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「観察総論」 救急救命士が傷病者の観察に用いる手段について理解する。	「問診」 標準テキスト改訂 11 版 P.297 参照 ・ SAMPLE・GUMBA などの救急現場で聴取すべき情報について説明できる。	廣崎 英和
2	「救急活動の基本」 救急隊の出場から現場到着までの一連の活動について理解する。	「全身観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.301 参照 ・ 傷病者の解剖学的評価の方法について説明できる。	廣崎 英和
3	「全身・外見の観察」 外見上の観察すべき項目の緊急度・重症度を示す症候について理解する。	「呼吸・循環の観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.303 参照 ・ 心停止前後に認める傷病者の呼吸状態について説明できる。	廣崎 英和
4	「バイタルサインの観察」 バイタルサインの観察すべき項目の緊急度・重症度を示す症候について理解する。	「循環の観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.305 参照 ・ 頻脈を呈する疾病などについて説明できる。 ・ 徐脈を呈する疾病などについて説明できる。	廣崎 英和

5	「バイタルサインの観察」 バイタルサインの観察すべき項目の緊急度・重症度を示す症候について理解する。	「意識の観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.307 参照 ・ JCS による意識の評価方法について説明できる。	廣崎 英和
6	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「神経学的評価」 標準テキスト改訂 11 版 P.320 参照 ・ 髄膜刺激症状の身体所見について説明できる。	廣崎 英和
7	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「頭部・頸部などの観察」 テキスト改訂 11 版 P.310 参照 ・ 末梢性顔面麻痺の観察所見について説明できる。 ・ 縮瞳を呈する原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
8	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「胸部の観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.313 参照 ・ 湿性ラ音を呈する原因疾患について説明できる。 ・ 心音 I 音および II 音について説明できる。	廣崎 英和
9	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「腹部の観察」 標準テキスト改訂 11 版 P.315 参照 ・ マックバーネー一点について説明できる。 ・ 腹膜刺激症状について説明できる。	廣崎 英和
10	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	廣崎 英和
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「自然科学」⇒「生化学」⇒「解剖生理学Ⅰ～Ⅲ」⇒「病理学・法医学」⇒「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「観察と評価」⇒「救急救命処置概論Ⅱ」⇒「心電図波形解説論」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	検査／放射線医学 ― 検査学分野 ― (Diagnosis and clinical examination)		
担当者	小足 有紀		
単位数 (時間数)	1単位 (20時間:12時間分)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト第11版		

授業概要
<p>患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する。</p> <p>なお、医師(医学博士)および救急救命士として医療機関などで基礎医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
救急搬送先医療機関の選定基準および臨床実習で必要となる臨床検査の基礎知識を習得する。
関連する学科のDP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「 検体検査 」 動脈血液ガス検査の目的、基準値について理解する。	「 動脈血液ガス検査 」 標準テキスト改訂11版P.201参照 ・PaO ₂ 値・PaCO ₂ 値の基準値について説明できる。 ・酸塩基平衡について説明できる。	小足 有紀
2	「 検体検査 」 血液検査・血液型の検査の目的などについて理解する。	「 血液型検査 」 配布資料参照 ・オモテ試験およびウラ試験について説明できる。	小足 有紀
3	「 生理検査・画像検査 」 心電図検査などの生理検査および画像検査の目的について理解する。	「 心電図検査 」 救命士標準テキスト改訂11版P.340参照 ・心筋梗塞時の特徴的な心電図波形について説明できる。	小足 有紀
4	「 生理検査・画像検査 」 心電図検査などの生理検査および画像検査の目的について理解する。	「 心電図検査 」 救命士標準テキスト改訂11版P.340参照 ・心筋梗塞時の特徴的な心電図波形について説明できる。	小足 有紀
5	「 検体検査(腎・肝機能検査) 」 生化学検査の目的、基準値について理解する。	「 生化学検査・尿検査 」 テキスト改訂11版P.202参照 ・AST・ALTなどについて説明できる。	小足 有紀
6	「 検体検査(腎・肝機能検査) 」 生化学検査の目的、基準値について理解する。	「 生化学検査・尿検査 」 テキスト改訂11版P.202参照 ・クレアチニンについて説明できる。	小足 有紀

成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。</p> <p>最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。</p> <p>筆記試験の内訳 検査学分野 60 点＋放射線医学分野 40 点＝合計 100 点満点</p>
準備学習/事後学習	<p>準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。</p> <p>事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。</p>
関連科目	<p>「病院前医学概論」⇒「保健医療制度・社会保障と社会福祉」⇒「検査/放射線医学」⇒「薬理学」⇒「病院内救急救命士概論」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」</p>
その他 (履修者へのアドバイス等)	

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	検査／放射線医学 — 放射線医学分野 — (Diagnosis and clinical examination)		
担当者	加藤 誠		
単位数 (時間数)	1単位 (20時間：8時間分)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト第11版		

授業概要
<p>救急救命士として放射能・放射線の知識・対処を身につける。福島原発事故以来、放射線の影響については一般の関心も高くなった。放射線とはなにか、物理的障害の1つとしての放射線は、生物本来の染色体にも影響を与え、蓄積されることを教え、他とは違う対処が必要であることを学習する。</p> <p>なお、診療放射線技師として医療機関などで放射線医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
救急搬送先医療機関の選定基準および臨床実習で必要となる臨床検査の基礎知識を習得する。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「放射線の基礎知識」 放射線、放射能および放射性元素について理解する。	「放射線の概要」 救命士標準テキストP.825 参照 ・放射線の種類と透過性について説明できる。	加藤 誠
2	「放射線への対応」 放射線防護に関するさまざまな知識について理解する。	「線量測定」 救命士標準テキストP.829 参照 ・電離箱式サーベイメータの目的について説明できる。	加藤 誠
3	「放射線への対応」 放射線防護に関するさまざまな知識について理解する。	「放射線防護」 救命士標準テキストP.827 参照 ・放射線防護の三原則について説明できる。	加藤 誠
4	「放射線による影響」 放射線が人体に与える影響について理解する。	「被爆と汚染」 救命士標準テキストP.828 参照 ・被爆と汚染の違いについて説明できる。	加藤 誠
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験 (100 点) を行い、60 点以上を合格とする。 筆記試験の内訳 検査学分野 60 点＋放射線医学分野 40 点＝合計 100 点満点		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		

<p>関連科目</p>	<p>「病院前医学概論」⇒「保健医療制度・社会保障と社会福祉」⇒「検査/放射線医学」⇒「薬理学」⇒「病院内救急救命士概論」⇒「臨床実習」⇒「シミュレーション実習Ⅳ」</p>
<p>その他 (履修者へのアドバイス等)</p>	<p>【 講師からのアドバイス 】 福島第一原発事故関連の新聞記事、特集などを参考として学習に努めてほしい。</p>

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	救急症候学 I (Symptoms I)		
担当者	古谷 泰樹		
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 11 版		

授業概要
重症脳障害、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまいなどの症候の種類、原因疾患、病態生理を把握することで救急現場における観察、評価、処置に反映させていく知識を学習する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。
授業の目的 (意義)
救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。
関連する学科の DP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「 中枢神経系の解剖 」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「 大脳の構造と機能 」 標準テキスト改訂 11 版 P.70 参照 ・大脳表面の運動野、感覚野、言語中枢などの機能について説明できる。	古谷 泰樹
2	「 脳循環・意識の概要 」 脳循環および意識の成り立ちを構造と役割について理解する。	「 頭蓋内圧とその調節 」 標準テキスト改訂 11 版 P.80 参照 ・脳灌流圧の構成式について説明できる。 ・意識 (覚醒中枢) の位置と機能について説明できる。	古谷 泰樹
3	「 重症脳障害 (1) 」 頭蓋内圧亢進の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 頭蓋内圧亢進 」 標準テキスト改訂 11 版 P.470 ・頭蓋内圧の構成要素について説明できる。 ・頭蓋内容積と頭蓋内圧の関係について説明できる。	古谷 泰樹
4	「 重症脳障害 (2) 」 頭蓋内圧亢進の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 頭蓋内圧亢進 」 標準テキスト改訂 11 版 P.470 ・クッシング徴候について説明できる。 ・頭蓋内圧を上昇させる因子について説明できる。	古谷 泰樹
5	「 意識障害 」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 意識障害と症状 」 標準テキスト改訂 11 版 P.487 ・意識障害で観察される特徴的な一般症状を説明し、それぞれを呈する代表疾患・病態を説明できる。	古谷 泰樹
6	「 意識障害 」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 意識障害と原因 」 標準テキスト改訂 11 版 P.486 ・一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の違いについて説明できる。	古谷 泰樹

7	「頭痛（１）」 頭痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「要因、原因」 救命士標準テキスト改訂 11 版 P.492 ・ 一次性頭痛と二次性頭痛の概念、特徴について説明できる。	古谷 泰樹
8	「頭痛（２）」 頭痛の原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「随伴症候」 標準テキスト改訂 11 版 P.493 ・ 頭痛に伴う随伴症候の種類、特徴的所見について説明できる。	古谷 泰樹
9	「痙攣（１）」 痙攣の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「全身性・局所性痙攣」 標準テキスト改訂 11 版 P.497 ・ 緊急度の高い全身性痙攣について説明できる。 ・ ミオクローヌスについて説明できる。	古谷 泰樹
10	「痙攣（２）」 痙攣の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「救急現場における対応」 標準テキスト改訂 11 版 P.500 ・ 痙攣中、痙攣後の救急現場における対応について説明できる。	古谷 泰樹
11	「運動麻痺（１）」 運動麻痺の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「四肢麻痺」 標準テキスト改訂 11 版 P.503 ・ 四肢麻痺の発症機序について説明できる。	古谷 泰樹
12	「運動麻痺（２）」 運動麻痺の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「交叉性麻痺」 標準テキスト改訂 11 版 P.503 ・ 交叉性麻痺の発症機序について説明できる。	古谷 泰樹
13	「めまい（１）」 めまいの原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「定義・概念」 標準テキスト改訂 11 版 P.506 ・ めまいの要因について概念、特徴を説明できる。 ・ 末梢性、中枢性めまいの違いについて説明できる。	古谷 泰樹
14	「めまい（２）」 めまいの原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「随伴症状」 標準テキスト改訂 11 版 P.507 ・ めまいに伴う随伴症候の種類、特徴的所見について説明できる。	古谷 泰樹
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	古谷 泰樹
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	救急症候学Ⅱ (SymptomsⅡ)		
担当者	廣崎 英和		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
呼吸不全、呼吸困難、胸痛、腹痛、腰痛・背部痛などの症候の種類、原因疾患、病態生理を把握することで救急現場における観察、評価、処置に反映させていく知識を学習する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。
授業の目的(意義)
救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。
関連する学科のDP
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「呼吸器系の解剖と症候」 呼吸器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「気道・肺の構造と症候」 標準テキスト改訂11版P.88 ・気道の構造と上気道閉塞について説明できる。 ・肺胞の構造と呼吸不全について説明できる。	廣崎 英和
2	「循環器系の解剖と症候」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「心臓・血管の構造と症候」 標準テキスト改訂11版P.98 ・心臓の構造と虚血について説明できる。 ・血管の構造と疼痛について説明できる。	廣崎 英和
3	「呼吸に関する基礎など」 呼吸運動障害などの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「呼吸運動障害の原因」 標準テキスト改訂11版P.102 ・中枢神経系、末梢神経系、呼吸筋、胸郭の呼吸運動障害の主な原因と発生機序について説明できる。	廣崎 英和
4	「呼吸不全の定義」 閉塞性・拘束性換気障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「CO ₂ ナルコーシスなど」 標準テキスト改訂11版P.455 ・閉塞性換気障害を呈する疾患について説明できる。 ・拘束性換気障害を呈する疾患について説明できる。	廣崎 英和
5	「呼吸不全：低換気」 肺胞障害などの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「肺胞障害などの原因」 標準テキスト改訂11版P.455 ・肺胞、肺間質の障害の主な原因と発生機序について説明できる。	廣崎 英和
6	「呼吸不全：換気血流比異常」 閉塞性・拘束性換気障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「換気血流不均等」 標準テキスト改訂11版P.456 ・肺内シャントを呈する疾患について説明できる。 ・肺胞死腔を呈する疾患について説明できる。	廣崎 英和

7	「呼吸困難（１）」 呼吸困難の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「吸気性・呼気性呼吸困難」標準テキスト改訂 11 版 P.510 ・吸気性呼吸困難を呈する疾患について説明できる。 ・呼気性呼吸困難を呈する疾患について説明できる。	廣崎 英和
8	「呼吸困難（２）」 呼吸困難の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「呼吸困難時の随伴症候」標準テキスト改訂 11 版 P.512 ・呼吸困難で観察される特徴的な一般症状を説明し、それぞれを呈する代表疾患・病態を説明できる。	廣崎 英和
9	「胸痛（１）」 胸痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「体性痛・内臓痛」標準テキスト改訂 11 版 P.521 ・胸痛時の体性痛および内臓痛の解剖生理、原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
10	「胸痛（２）」 胸痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「狭心痛」標準テキスト改訂 11 版 P.522 ・急性冠症候群で呈する特徴的な胸痛について説明できる。	廣崎 英和
11	「腹痛（１）」 腹痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「体性痛・内臓痛」標準テキスト改訂 11 版 P.528 ・腹痛時の体性痛および内臓痛の解剖生理、原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
12	「腹痛（２）」 腹痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「既往歴・随伴症候」標準テキスト改訂 11 版 P.529 ・腹痛時の既往歴や随伴症候から考えられる原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
13	「腰・背部痛（１）」 腰・背部痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「腰・背部痛の原因疾患」標準テキスト改訂 11 版 P.535 ・性状と随伴症状から腰痛・背部痛を訴える原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
14	「腰・背部痛（２）」 腰・背部痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「レッドフラグサイン」標準テキスト改訂 11 版 P.534 ・腰痛・背部痛傷病者における要注意所見について説明できる。	廣崎 英和
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	廣崎 英和
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	救急症候学Ⅲ (SymptomsⅢ)		
担当者	大竹 宗也		
単位数 (時間数)	1単位 (20時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>喀血、吐血、下血、体温上昇などの症候の種類、原因疾患、病態生理を把握することで救急現場における観察、評価、処置に反映させていく知識を学習する。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科の DP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「 喀血(1) 」 喀血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 喀血の原因疾患 」 標準テキスト改訂11版P.515 ・喀血を呈する疾患(気管支拡張症、肺結核など)について説明できる。	大竹 宗也
2	「 喀血(2) 」 喀血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 喀血の判別方法 」 標準テキスト改訂11版P.516 ・喀血に関する判別を要する病態・症状について説明できる。	大竹 宗也
3	「 吐血(1) 」 吐血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 吐血の定義・概念 」 標準テキスト改訂11版P.532 ・吐血の定義をふまえて、吐血を呈する疾患について説明できる。	大竹 宗也
4	「 吐血(2) 」 吐血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 コーヒー残渣様吐物 」 標準テキスト改訂11版P.32 ・コーヒー残渣様吐物を呈する原因疾患について説明できる。	大竹 宗也
5	「 下血(1) 」 下血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 下血の定義・概念 」 標準テキスト改訂11版P.532 ・下血の定義をふまえて、下血を呈する疾患について説明できる。	大竹 宗也
6	「 下血(2) 」 下血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「 タール様便 」 標準テキスト改訂11版P.533 ・タール様便を呈する原因疾患について説明できる。 ・鮮血便を呈する原因疾患について説明できる。	大竹 宗也

7	「体温上昇（１）」 地温上昇の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「定義・概念」標準テキスト改訂 11 版 P.538 ・体温上昇の要因について概念、特徴を説明できる。 ・高熱、高体温の概念、特徴について説明できる。	大竹 宗也
8	「体温上昇（２）」 体温上昇の原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「病 態」標準テキスト改訂 11 版 P.539 ・体温上昇に伴う病態の変化について説明できる。	大竹 宗也
9	「体温上昇（３）」 地温上昇の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「原因、緊急度・重症度など」標準テキスト改訂 11 版 P.541 ・高熱時の発症、進展について説明できる。	大竹 宗也
10	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大竹 宗也
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	前期
科目名	疾病救急医学Ⅰ－神経系疾患分野－（Emergency MedicineⅠ）		
担当者	益田 健史		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>神経系疾患は救急搬送する傷病者の中でも意識障害を呈して本人の訴えが乏しい疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解したうえで観察所見などから疾病の重篤度を読み取れるように学習する。</p> <p>なお、医師（医学博士）として医療機関などで臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的（意義）
<p>各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「解剖」 神経系の解剖生理についてその概要を理解する。	「神経の解剖」 標準テキスト改訂11版P.67 ・前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の機能について説明できる。	益田 健史
2	「総論」 神経系疾患の主な症候、医療機関での検査などについて理解する。	「麻痺・意識など」 標準テキスト改訂11版P.544 ・神経系疾患で認められる主な症候の根拠を簡素に説明できる。	益田 健史
3	「神経系疾患（1）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳梗塞」 標準テキスト改訂11版P.546 ・脳梗塞の疫学、種類、病因、病態、症候、予後、現場活動について説明できる。	益田 健史
4	「神経系疾患（2）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳梗塞」 標準テキスト改訂11版P.546 ・脳血栓症と脳塞栓症の病理、病態生理、観察所見などの違いについて説明できる。	益田 健史
5	「神経系疾患（3）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「くも膜下出血」 標準テキスト改訂11版P.549 ・くも膜下出血の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史
6	「神経系疾患（4）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「くも膜下出血」 標準テキスト改訂11版P.549 ・くも膜下出血の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史

7	「 神経系疾患（５） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 脳出血 」標準テキスト改訂 11 版 P.547 ・脳出血の疫学、病院、病態、好発部位、症候、現場活動について説明できる。	益田 健史
8	「 神経系疾患（６） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 脳出血 」標準テキスト改訂 11 版 P.547 ・脳出血の疫学、病院、病態、好発部位、症候、現場活動について説明できる。	益田 健史
9	「 神経系疾患（７） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 中枢神経の感染症 」標準テキスト改訂 11 版 P.553 ・髄膜炎の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
10	「 神経系疾患（８） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 中枢神経の疾患 」標準テキスト改訂 11 版 P.553 ・脳炎・脳症の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
11	「 神経系疾患（６） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 末梢神経の疾患 」標準テキスト改訂 11 版 P.553 ・ギラン・バレー症候群の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
12	「 神経系疾患（９） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 変性疾患 」標準テキスト改訂 11 版 P.555 ・ALS（筋萎縮性側索硬化症）の概念、原因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史
13	「 神経系疾患（10） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 その他の疾患 」標準テキスト改訂 11 版 P.554 ・てんかんの概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
14	「 神経系疾患（11） 」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 その他の疾患 」標準テキスト改訂 11 版 P.555 ・脳腫瘍の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
15	「 科目認定試験 」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「 疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ 」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	疾病救急医学Ⅱ — 呼吸系・循環系疾患分野 — (Emergency Medicine Ⅱ)		
担当者	益田 健史		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>呼吸器および循環系の疾患のうち主として救急救命活動の対象となることの多い疾患を対象としてそれらの概要について学習する。勉学の到達目標は救急救命活動の現場でこれらの疾患に遭遇したときに、その病気のあらましが理解でき、救急処置や搬送ができるようになることである。</p> <p>なお、医師(医学博士)として医療機関などで臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「呼吸不全の定義(総論)」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「主要症候」 標準テキスト改訂11版P.557 ・喀痰を呈する疾患について説明できる。 ・喘鳴を呈する疾患について説明できる。	益田 健史
2	「呼吸器疾患(1)」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「急性喉頭蓋炎など」 標準テキスト改訂11版P.557 ・急性喉頭蓋炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
3	「呼吸器疾患(2)」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「気管支喘息」 標準テキスト改訂11版P.560 ・気管支喘息の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
4	「呼吸器疾患(3)」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「慢性閉塞性肺疾患」 標準テキスト改訂11版P.557 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
5	「呼吸器疾患(4)」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「肺炎」 標準テキスト改訂11版P.562 ・肺炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史

6	「 呼吸器疾患（５） 」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 その他の呼吸系疾患 」 標準テキスト改訂 11 版 P.564 ・過換気症候群の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
7	「 循環器疾患（１） 」 循環器疾患における重要な症候について理解する。	「 総論 」 標準テキスト改訂 11 版 P.566 ・循環器疾患の胸痛の特徴について説明できる。 ・救急現場での応急処置と搬送について説明できる。	益田 健史
8	「 循環器疾患（２） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 心筋梗塞・その合併症 」 標準テキスト改訂 11 版 P.568 ・心筋梗塞の病態、症状、合併症、観察、処置について説明できる。	益田 健史
9	「 循環器疾患（３） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 不安定狭心症 」 標準テキスト改訂 11 版 P.570 ・不安定狭心症の病態、症状、合併症、観察、処置について説明できる。	益田 健史
10	「 循環器疾患（４） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 その他の心疾患 」 標準テキスト改訂 11 版 P.571 ・心タンポナーデの病態、症状、合併症、観察、処置について説明できる。	益田 健史
11	「 循環器疾患（５） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 不整脈 」 標準テキスト改訂 11 版 P.571 ・致死的不整脈の波形の特徴について説明できる。	益田 健史
12	「 循環器疾患（６） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 急性大動脈解離 」 標準テキスト改訂 11 版 P.581 ・急性大動脈解離および先天性心疾患の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
13	「 循環器疾患（７） 」 循環器疾患における重要な症候について理解する。	「 肺血栓塞栓症 」 標準テキスト改訂 11 版 P.583 ・肺血栓塞栓症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
14	「 循環器疾患（８） 」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 急性四肢動脈閉塞症など 」 標準テキスト改訂 11 版 P.564 ・急性四肢動脈閉塞症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	益田 健史
15	「 科目認定試験 」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「 疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ 」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	疾病救急医学Ⅲ ―内分泌系疾患分野― (Emergency Medicine Ⅲ)		
担当者	武山 直志		
単位数(時間数)	1単位(20時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>代謝・内分泌・栄養系疾患は救急搬送する傷病者の中でも意識障害を呈して本人の訴えが乏しい疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解したうえで観察所見などから疾病の重篤度を読み取れるように学習する。</p> <p>なお、医師(医学博士)として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	<p>「総論」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の解剖生理、検査、主な症候について理解する。</p>	<p>「内分泌における解剖」 標準テキスト改訂11版P.126</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌系の解剖生理について説明できる。 ・視床下部の機能について説明できる。 	武山 直志
2	<p>「総論」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の解剖生理、検査、主な症候について理解する。</p>	<p>「内分泌における解剖」 標準テキスト改訂11版P.127</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主なホルモンとその作用について説明できる。 	武山 直志
3	<p>「代謝・内分泌・栄養系疾患(1)」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。</p>	<p>「糖尿病(1)」 標準テキスト改訂11版P.603</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の発症メカニズムについて説明できる。 ・糖尿病の疫学について説明できる。 	武山 直志
4	<p>「代謝・内分泌・栄養系疾患(2)」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。</p>	<p>「糖尿病(2)」 標準テキスト改訂11版P.604</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1型糖尿病の病態について説明できる。 ・2型糖尿病の病態について説明できる。 	武山 直志
5	<p>「代謝・内分泌・栄養系疾患(3)」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。</p>	<p>「糖尿病(3)」 標準テキスト改訂11版P.606</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性外アトピーの病態について説明できる。 ・低血糖の病態について説明できる。 	武山 直志
6	<p>「代謝・内分泌・栄養系疾患(4)」</p> <p>代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。</p>	<p>「酸塩基平衡の異常」 標準テキスト改訂11版P.608</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸性アシドーシスの概要について説明できる。 ・呼吸性アルカローシスの概要について説明できる。 	武山 直志

7	「代謝・内分泌・栄養系疾患（5）」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「内分泌疾患（1）」 標準テキスト改訂 11 版 P.611 ・甲状腺機能亢進症の病態、症候について説明できる。 ・甲状腺機能低下症の病態、症候について説明できる。	武山 直志
8	「代謝・内分泌・栄養系疾患（6）」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「内分泌疾患（2）」 標準テキスト改訂 11 版 P.611 ・褐色細胞腫の病態、症候について説明できる。 ・副腎皮質機能低下の病態、症候について説明できる。	武山 直志
9	「代謝・内分泌・栄養系疾患（7）」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「高脂血症・痛風」 標準テキスト改訂 11 版 P.610 ・痛風の症状、原因、救急現場活動について説明できる。	武山 直志
10	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	武山 直志
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	疾病救急医学Ⅳ (Emergency Medicine Ⅳ)		
担当者	小澤 勝男		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書: 救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>消化器系疾患は救急搬送する疾病患者の中でも循環器と並んで多く取り扱う疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解し、訴える症状から疾病の重篤度を読み取れるように学習する。</p> <p>腎不全、泌尿・生殖系は男性、女性で異なるためにその違いを学習する。</p> <p>なお、医師(医学博士)として医療機関などで救急医学(主に胸部・腹部外科)に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「 消化器疾患(1) 」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 総論 」標準テキスト改訂11版P.585 ・消化器疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	小澤 勝男
2	「 消化器疾患(2) 」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 胃・十二指腸疾患 」標準テキスト改訂11版P.588 ・胃・十二指腸潰瘍および急性胃粘膜病変(AGML)の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
3	「 消化器疾患(3) 」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 小腸疾患 」標準テキスト改訂11版P.590 ・腸閉塞および上腸間膜動脈閉塞症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
4	「 消化器疾患(4) 」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 大腸疾患 」標準テキスト改訂11版P.591 ・大腸穿孔および虚血性大腸炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
5	「 消化器疾患(5) 」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「 腹膜炎 」標準テキスト改訂11版P.592 ・急性腹膜炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男

6	「肝・胆・膵・腹膜の疾患」 肝臓・胆道・膵臓などの疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「肝・胆・膵・腹膜の疾患」標準テキスト改訂11版P.592 ・肝硬変、急性胆道感染症、急性膵炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
7	「泌尿器系疾患（1）」 泌尿器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「総論」標準テキスト改訂11版P.595 ・泌尿器系疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	小澤 勝男
8	「泌尿器系疾患（2）」 泌尿器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「腎臓の疾患」標準テキスト改訂11版P.596 ・急性腎不全および慢性腎不全の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
9	「筋・骨格系疾患（総論）」 筋・骨格系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脊椎疾患」標準テキスト改訂11版P.621 ・椎間板ヘルニアの定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
10	「脊柱疾患（総論）」 脊椎疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「化膿性関節炎など」標準テキスト改訂11版P.623 ・化膿性関節炎および肘内障の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
11	「筋系疾患（総論）（1）」 筋系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「重症筋無力症など」標準テキスト改訂11版P.624 ・重症筋無力症および周期性四肢麻痺の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
12	「筋系疾患（総論）（2）」 筋系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「横紋筋融解症」標準テキスト改訂11版P.624 ・横紋筋融解症の概念、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
13	「皮膚疾患（総論）」 皮膚疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「皮膚の細菌感染」標準テキスト改訂11版P.626 ・蜂窩織炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
14	「皮膚疾患（各論）」 皮膚疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「その他の皮膚疾患」標準テキスト改訂11版P.627 ・接触性皮膚炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小澤 勝男
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	疾病救急医学V (Emergency Medicine V)		
担当者	森 健		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書: 救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>血液・免疫系疾患: 救急搬送において血液疾患や免疫の知識から、観察や処置を的確に実施できるよう学ぶ。</p> <p>感染制御: 病原微生物の特性と感染症を学び、傷病者を守り、医療者を守り、自らを守る感染予防策を学ぶ。</p> <p>なお、薬剤師として医療機関・研究機関などで環境感染に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「血液系総論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「血液疾患の基礎」 標準テキスト改訂11版P.614 ・出血傾向について説明できる。	森 健
2	「免疫系総論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「免疫総論など」 標準テキスト改訂11版P.616 ・自然免疫・獲得免疫について説明できる。 ・特異的免疫・非特異的免疫について説明できる。	森 健
3	「血液系疾患各論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「血小板減少など」 標準テキスト改訂11版P.615 ・血友病の特徴について説明できる。	森 健
4	「血液系疾患各論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「貧血など」 標準テキスト改訂11版P.614 ・貧血の定義について説明できる。	森 健
5	「免疫疾患各論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「アレルギー疾患」 標準テキスト改訂11版P.616 ・各種アレルギーの病型について説明できる。 ・膠原病について説明できる。	森 健
6	「免疫疾患各論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「アレルギー疾患」 標準テキスト改訂11版P.616 ・アナフィラキシーの症候とその対処などについて説明できる。	森 健

7	「感染症総論」 炎症および感染の定義と原因について理解する。	「炎症と感染」 標準テキスト改訂 11 版 P.634 ・炎症について説明できる。 ・感染について説明できる。	森 健
8	「感染症総論」 各種感染経路に対する標準予防策について理解する。	「感染の成り立ち」 標準テキスト改訂 11 版 P.634 ・不顕性感染について説明できる。 ・日和見感染症について説明できる。	森 健
9	「感染症総論」 感染症法による主な感染症の分類について理解する。	「感染症法」 標準テキスト改訂 11 版 P.635 ・一類感染症の種類について説明できる。 ・感染経路とその予防接種について説明できる。	森 健
10	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「インフルエンザ・結核」 標準テキスト改訂 11 版 P.636 ・季節性インフルエンザの症候について説明できる。 ・結核の病態について説明できる。	森 健
11	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「敗血症・食中毒」 標準テキスト改訂 11 版 P.636 ・敗血症の病態について説明できる。 ・腸管出血性大腸菌感染症の症候について説明できる。	森 健
12	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「輸入感染症」 標準テキスト改訂 11 版 P.640 ・マラリアの症候について説明できる。 ・細菌性赤痢の症候について説明できる。	森 健
13	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「発疹性感染症」 標準テキスト改訂 11 版 P.640 ・麻疹の特徴と徴候について説明できる。 ・風疹の特徴と徴候について説明できる。	森 健
14	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「その他の感染症」 標準テキスト改訂 11 版 P.641 ・後天性免疫不全症の特徴と徴候について説明できる。 ・破傷風の特徴と徴候について説明できる。	森 健
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	森 健
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	外傷救急医学 I (Trauma and Emergency Medicine I)		
担当者	益田 健史		
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 11 版		

授業概要	
<p>外傷の定義、発生機序、身体各部の外傷の特徴とその取り扱いについて学習する。</p> <p>外傷という外部より急に障害を受ける病態を理解し、その重症度のみならず緊急度の判断ができるようになることが求められる。それには人体の構造とその働き (生理) を良く理解し、その上で、その異常である病態生理が解るように学習する。</p> <p>なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>	
授業の目的 (意義)	
<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>	
関連する学科の DP	
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>	

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「外傷総論 (1)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の疫学」 標準テキスト改訂 11 版 P.688 ・ロード&ゴーヤトラウマバイパスについて説明できる。	益田 健史
2	「外傷総論 (2)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷システム」 標準テキスト改訂 11 版 P.690 ・トラウマバイパスの定義について説明できる。 ・JPTEC の活動理念について説明できる。	益田 健史
3	「外傷総論 (3)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「受傷機転とエネルギー」 標準テキスト改訂 11 版 P.691 ・高エネルギー外傷について説明できる。 ・減速作用機序で生じる損傷部位について説明できる。	益田 健史
4	「外傷総論 (4)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「受傷機転とエネルギー」 標準テキスト改訂 11 版 P.691 ・直達外力について説明できる。 ・介達外力について説明できる。	益田 健史
5	「外傷総論 (5)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の分類」 標準テキスト改訂 11 版 P.692 ・鋭的外傷の定義について説明できる。 ・鈍的外相の定義について説明できる。	益田 健史

6	「外傷総論（6）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の分類」標準テキスト改訂 11 版 P.692 ・多発外傷の定義について説明できる。	益田 健史
7	「外傷総論（7）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「主な受傷形態（1）」標準テキスト改訂 11 版 P.696 ・ダッシュボード外傷の受傷機転について説明できる。 ・ハンドル外傷の受傷機転について説明できる。	益田 健史
8	「外傷総論（8）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「主な受傷機転（2）」標準テキスト改訂 11 版 P.698 ・歩行者外傷における一次損傷、二次損傷、三次損傷について説明できる。	益田 健史
9	「外傷の病態生理（1）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「侵襲時の循環動態の変化」標準テキスト改訂 11 版 P.701 ・出血によるホルモン分泌反応について説明できる。	益田 健史
10	「外傷の病態生理（2）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「侵襲時の循環動態の変化」標準テキスト改訂 11 版 P.702 ・外傷死の 3 徴について説明できる。	益田 健史
11	「外傷の病態生理（3）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「外傷に伴うショック(1)」標準テキスト改訂 11 版 P.703 ・循環血流量減少性ショックの身体所見について説明できる。	益田 健史
12	「外傷の病態生理（4）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「外傷に伴うショック(2)」標準テキスト改訂 11 版 P.704 ・心外閉塞性・拘束性ショックの身体所見について説明できる。	益田 健史
13	「外傷の現場活動（1）」 外傷時の初期評価、全身観察からの緊急度・重症度の把握について理解する。	「初期評価」標準テキスト改訂 11 版 P.707 ・初期評価の目的、評価項目、および初期評価段階で行うべき処置について説明できる。	益田 健史
14	「外傷の現場活動（2）」 外傷時の初期評価、全身観察からの緊急度・重症度の把握について理解する。	「全身観察」標準テキスト改訂 11 版 P.708 ・全身観察の目的、評価項目、および全身観察段階で行うべき処置について説明できる。	益田 健史
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	外傷救急医学Ⅱ (Trauma and Emergency Medicine Ⅱ)		
担当者	大野 健二		
単位数(時間数)	1単位(30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>頭部外傷:脳損傷は最も致命的な損傷である。然し、救急隊長の判断の良し悪しでその後の経過に差が出ている。また、頸部、脊椎、脊髄の損傷は重大な後遺症を残しやすい。そこで初期の判断と応急処置について重点的に学習する。</p> <p>胸部外傷:特に直接呼吸・循環機能に障害を及ぼし、しばしば致命的となる。</p> <p>頭部～胸部外傷の病態生理について理解し、現場での適切な救急処置ができるようになること、及び適切な搬送先の選択と搬送ができるように学習する。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的(意義)
<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(单元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	「頭部外傷(1)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「一次性脳損傷など」標準テキスト改訂11版P.713 ・頭部外傷における一次性脳損傷と二次性脳損傷との違いについて説明できる。	大野 健二
2	「頭部外傷(2)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「急性硬膜外血腫など」標準テキスト改訂11版P.715 ・急性硬膜外血腫の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
3	「頭部外傷(3)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「びまん性軸索損傷など」標準テキスト改訂11版P.716 ・びまん性軸索損傷及びピンポンボール骨折(小児)の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
4	「頭部外傷(4)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷性くも膜下出血」標準テキスト改訂11版P.716 ・外傷性くも膜下出血及び慢性硬膜下血種の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
5	「頭部外傷(5)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「頭蓋底骨折」標準テキスト改訂11版P.714 ・頭蓋底骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二

6	「顔面・頸部外傷（１）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「上顎骨・下顎骨の骨折」 標準テキスト改訂 11 版 P.719 ・上顎骨骨折及び下顎骨骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
7	「顔面・頸部外傷（２）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「眼窩吹き抜け骨折」 標準テキスト改訂 11 版 P.720 ・眼窩吹き抜け骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
8	「顔面・頸部外傷（３）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「その他の顔面外傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.721 ・その他の顔面外傷の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
9	「脊椎・脊髄外傷（１）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「頸髄損傷・脊髄損傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.716 ・高位頸髄損傷の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
10	「脊椎・脊髄外傷（２）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「その他の頸椎骨折」 標準テキスト改訂 11 版 P.727 ・ジェファーソン骨折について説明できる。 ・ハングマン骨折について説明できる。	大野 健二
11	「脊椎・脊髄外傷（３）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「脊髄ショックなど」 標準テキスト改訂 11 版 P.726 ・脊髄ショックと神経原性ショックの違いについて説明できる。	大野 健二
12	「胸部外傷（１）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「心タンポナーデ」 標準テキスト改訂 11 版 P.731 ・心タンポナーデの受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
13	「胸部外傷（２）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「緊張性気胸」 標準テキスト改訂 11 版 P.732 ・緊張性気胸の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
14	「胸部外傷（３）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「フレイルチェスト」 標準テキスト改訂 11 版 P.733 ・フレイルチェストの受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野 健二
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	後期
科目名	外傷救急医学 III (Trauma and Emergency Medicine III)		
担当者	益田 健史		
単位数 (時間数)	1単位 (30時間)	学習方法	講義
教科書・参考書	教科書: 救急救命士標準テキスト改訂第11版		

授業概要
<p>外傷総論で学習したことをふまえて「外傷」という「外部からの急激な障害」を受ける病態を理解し、その重症度のみならず緊急度の判断を学習する。そのために、各論として身体各部の外傷の特徴を学習する。</p> <p>なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>
関連する学科の DP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「腹部外傷(1)」 腹部外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「主な腹部外傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.737 ・腹部の実質臓器の損傷とそれぞれの出血量について説明できる。	益田 健史
2	「腹部外傷(2)」 腹部外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「腹部外傷の現場活動」 標準テキスト改訂 11 版 P.738 ・腸管脱出および穿通性異物に対する処置の概要について説明できる。	益田 健史
3	「骨盤外傷(1)」 骨盤外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「骨盤外傷の特徴」 標準テキスト改訂 11 版 P.740 ・安定型骨盤骨折および不安定型骨盤骨折の定義について説明できる。	益田 健史
4	「骨盤外傷(2)」 骨盤外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「骨盤外傷の現場活動」 標準テキスト改訂 11 版 P.742 ・骨盤骨折傷病者に対する病院前での骨盤固定について説明できる。	益田 健史
5	「四肢外傷(1)」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の特徴など」 標準テキスト改訂 11 版 P.744 ・四肢外傷の特徴および病態について説明できる。 ・阻血の5Pについて説明できる。	益田 健史
6	「四肢外傷(2)」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の現場活動」 標準テキスト改訂 11 版 P.748 ・出血、捻挫・脱臼、骨折、コンパートメント症候群、指趾切断に対する適切な処置について説明できる。	益田 健史

7	「四肢外傷（3）」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の現場活動」 標準テキスト改訂 11 版 P.750 ・ 股関節脱臼の所見、搬送時の注意点について説明できる。	益田 健史
8	「小児の外傷」 小児に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「小児の主な外傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.752 ・ 児童虐待による頭部外傷の特徴について説明できる。 ・ 肘内障の特徴について説明できる。	益田 健史
9	「高齢者の外傷」 高齢者に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「高齢者の主な外傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.755 ・ 高齢者の慢性硬膜下血腫の特徴について説明できる。 ・ 大腿部近位部骨折の特徴について説明できる。	益田 健史
10	「妊婦の外傷」 妊婦に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「妊婦の主な外傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.756 ・ 妊娠後期における搬送の特殊性について説明できる。 ・ 妊婦における外傷の特徴について説明できる。	益田 健史
11	「熱 傷」 熱傷の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「熱傷の評価方法」 標準テキスト改訂 11 版 P.760 ・ 熱傷深度推定法の特徴と評価方法が説明できる。 ・ 熱傷面積の評価方法と算定が説明できる。	益田 健史
12	「化学損傷」 化学損傷の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「主な化学損傷」 標準テキスト改訂 11 版 P.763 ・ 酸・アルカリによる化学損傷の特徴および応急処置について説明できる。	益田 健史
13	「縊頸・絞頸」 縊頸および絞頸の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「縊頸・絞頸」 標準テキスト改訂 11 版 P.775 ・ 縊頸・絞頸の定義、病態、症候および救急現場での対応について説明できる。	益田 健史
14	「刺咬症（傷）」 刺咬症（傷）の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「刺咬症（傷）」 標準テキスト改訂 11 版 P.778 ・ 爬虫類の咬症の対応について説明できる。 ・ 海洋生物の刺咬症の対応について説明できる。	益田 健史
15	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：救急救命士標準テキストなどを参考に事前学習を行うこと。 事後学習：国家試験に反映されやすいキーワードを選出し、継続的な暗記に努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	通 年
科目名	シミュレーション実習 I (Simulation I)		
担当者	石河 康司、大竹 宗也、廣崎 英和、古谷 泰樹		
単位数 (時間数)	2 単位 (90 時間 : 62 時間分)	学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書 : 救急救命士標準テキスト改訂第 11 版		

授業概要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急現場における規律・安全管理について学習する。 2. 救急現場における救急資器材の取扱いについて学習する。 3. JRC ガイドラインに基づいた一次救命処置 (BLS) の技術について学習する。 4. 一般市民への心肺蘇生法の普及啓発を目的としたプレゼンテーション方法について学習する。 5. JRC ガイドラインに基づいた二次救命処置 (ALS) としてエアウェイおよび声門上気道デバイスの技術について学習する。 <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>	
授業の目的 (意義)	
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。</p>	
関連する学科の DP	
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。	

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「訓練礼式 (1)」 気をつけ、整列休めなどの消防機関で行われている各個訓練について理解する。	「各個訓練」 ・「気をつけ」姿勢のポイントをふまえて実施できる。 ・「整列休め」姿勢のポイントをふまえて実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
2	「訓練礼式 (2)」 気をつけ、休めなどの消防機関で行われている各個訓練について理解する。	「服装点検」 ・「服装点検」行動のポイントをふまえて実施できる。 ・「服装点検」号令のポイントをふまえて実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
3	「救急標準課程 (1)」 三角巾の目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	「三角巾の取扱い」 ・八折三角巾について実施できる。 ・三角巾を用いた直接圧迫法について実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
4	「救急標準課程 (2)」 三角巾の目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	「三角巾の取扱い」 ・頭頂部切創、上腕骨折への三角巾を用いた圧迫止血および固定、被服について実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

5	<p>「一般市民BLS(1)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「心肺蘇生法 Web 講習」</p> <p>・一般市民による早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
6	<p>「一般市民BLS(2)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「発見～AED実施」</p> <p>・JCS300 時の意識の評価が実施できる。</p> <p>・蘇生の必要性の評価が客観的に実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
7	<p>「一般市民BLS(3)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「異物除去など」 標準テキスト P345～351</p> <p>・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
8	<p>「一般市民BLS(4)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「発見～AED実施」</p> <p>・迅速に AED を装着し、早期除細動が実施できる。</p> <p>・除細動実施の早期化と CPR 活動が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
9	<p>「一般市民BLS(5)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「スキルチェック(効果測定)」</p> <p>・一般市民による一次救命処置が訓練人形に対して迅速な除細動と絶え間ない胸骨圧迫が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
10	<p>「一般市民BLS(6)」</p> <p>一般市民による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「スキルチェック(効果測定)」</p> <p>・一般市民による一次救命処置が訓練人形に対して迅速な除細動と絶え間ない胸骨圧迫が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
11	<p>「バック・バルブ・マスク」</p> <p>バック・バルブ・マスクの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「人工呼吸」</p> <p>・バック・バルブ・マスクによる人工呼吸を 2 分間継続して正確率 80% 以上を維持できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
12	<p>「ラリングアルチューブ」</p> <p>ラリングアルチューブの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「ラリングアルチューブ取扱い」</p> <p>・ラリングアルチューブの目的、適応を理解し、訓練人形を用いて適切な気道確保が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
13	<p>「LM・igel」</p> <p>LM・igel の目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「LM・igel 取扱い」</p> <p>・LM・igel の目的、適応を理解し、訓練人形を用いて適切な気道確保が実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
14	<p>「想定訓練 実践論(1)」</p> <p>救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「訓練人形の取扱いなど」</p> <p>・心肺蘇生法の訓練時に訓練人形の取扱いが実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
15	<p>「想定訓練 実践論(2)」</p> <p>救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「救急隊による一次救命処置」</p> <p>・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及び特定行為プロトコルが実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
16	<p>「想定訓練 実践論(3)」</p> <p>救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「救急隊による一次救命処置」</p> <p>・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及び特定行為プロトコルが実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷
17	<p>「想定訓練 実践論(4)」</p> <p>救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について理解する。</p>	<p>「救急隊による一次救命処置」</p> <p>・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及び特定行為プロトコルが実施できる。</p>	石河・大竹 廣崎・古谷

18	「想定訓練 実践論（５）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
19	「想定訓練 実践論（６）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
20	「想定訓練 実践論（７）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
21	「想定訓練 実践論（８）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
22	「想定訓練 実践論（９）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
23	「想定訓練 実践論（１０）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
24	「想定訓練 実践論（１１）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
25	「想定訓練 実践論（１２）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
26	「想定訓練 実践論（１３）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
27	「想定訓練 実践論（１４）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
28	「想定訓練 実践論（１５）」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について理解する。	「救急隊による一次救命処置」 ・早期除細動および絶え間ない胸骨圧迫を行った心肺蘇生法及 び特定行為プロトコルが実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
29	「心肺停止プロトコル スキルチェック」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について評価する。	「スキルチェック」 ・救急隊による一次救命処置が訓練人形に対して 5 分間継続 し、正確率が 80%以上で実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
30	「心肺停止プロトコル スキルチェック」 救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、 適応、注意事項について評価する。	「スキルチェック」 ・救急隊による一次救命処置が訓練人形に対して 5 分間継続 し、正確率が 80%以上で実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

31	<p>「心肺停止プロトコル 筆記試験」</p> <p>救急隊員による心肺蘇生プロトコルの目的、適応、注意事項について評価する。</p>	<p>これまでの学習内容について正しく説明できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。</p>		
準備学習/事後学習	<p>準備学習：普通自動車免許及び高校・大学における心肺蘇生法教育より概略を把握する。 事後学習：スキルの維持・迅速性の向上を図るために継続的なトレーニングに努める。</p>		
関連科目	<p>「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など</p>		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	通 年
科目名	シミュレーション実習 I 【搬送基礎法】 (Simulation I 【The Conveyance basic】)		
担当者	松本 綾		
単位数 (時間数)	2 単位 (90 時間 : 28 時間分)	学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書 : 救急救命士標準テキスト改訂第 11 版		

授業概要	
<p>1) 道路・一般住宅・階段などの状況に応じた救急搬送に関する技術を学ぶ。</p> <p>2) 傷病者とのコミュニケーション技術を学ぶ。</p> <p>3) 傷病者に対する安全の配慮、事故防止対策について学ぶ。</p> <p>なお、看護師として民間救急搬送会社などで患者搬送事業に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>	
授業の目的 (意義)	
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。</p> <p><u>*本実習は職業実践専門課程 (文部科学省) 指定実習として民間患者搬送事業が担当する臨地実習となる。</u></p>	
関連する学科の DP	
救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。	

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「搬送法概論」 傷病者を安全に搬送するための手順・技術について理解する。	「ボディメカニクスの基本」標準テキスト改訂 11 版 P.436 ・傷病者搬送における力学的原理について説明できる。	松本 綾
2	「搬送法概論」 傷病者を安全に搬送するための手順・技術について理解する。	「パワーリフティングなど」標準テキスト改訂 11 版 P.437 ・救急隊員の身体的負担の軽減方法について説明できる。	松本 綾
3	「徒手搬送」 徒手搬送の適応及び搬送技術について理解する。	「支持搬送など」標準テキスト改訂 11 版 P.440 ・支持搬送の適応について説明できる。	松本 綾
4	「徒手搬送」 徒手搬送の適応及び搬送技術について理解する。	「組手搬送など」標準テキスト改訂 11 版 P.440 ・組手搬送の適応について説明できる。	松本 綾
5	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「メインストレッチャー」標準テキスト改訂 11 版 P.445 ・メインストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾

6	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「サブストレッチャー」 標準テキスト改訂 11 版 P.442 ・サブストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾
7	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「布担架など」 標準テキスト改訂 11 版 P.444 ・布担架の特徴について説明できる。	松本 綾
8	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「スクープストレッチャーなど」 改訂 11 版 P.444 ・スクープストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾
9	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「狭隘な場所からの搬送」 標準テキスト改訂 11 版 P.445 ・トイレからの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
10	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「狭隘な場所からの搬送」 標準テキスト改訂 11 版 P.445 ・一般住宅からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
11	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「階段などからの搬送」 標準テキスト改訂 11 版 P.445 ・階段からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
12	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「事故車両からの搬送」 標準テキスト改訂 11 版 P.445 ・事故車両からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
13	「曳航・搬入・搬出」 救急自動車への曳航・搬入・搬出の注意点、搬送方法について理解する。	「メインストレッチャーによる曳航など」 <small>標準テキスト改訂 11 版 P.445</small> ・メインストレッチャー曳航中などの注意点について説明できる。	松本 綾
14	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	松本 綾
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 実技試験（搬送基礎法 60 点＋搬送実践法 40 点＝100 点満点）によって評価する。		
準備学習/事後学習	準備学習：普通自動車免許及び高校・大学における心肺蘇生法教育より概略を把握する。 事後学習：スキルの維持・迅速性の向上を図るために継続的なトレーニングに努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	救急救命科 1年	開講期間	通 年
科目名	シミュレーション実習Ⅱ (Simulation II)		
担当者	石河 康司、大竹 宗也、廣崎 英和、古谷 泰樹		
単位数 (時間数)	4単位 180時間	学習方法	演習・実習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版 参考書：救急処置スキルマスターおよびJPTECガイドブック改訂第2版補訂版		

授業概要
<p>救急救命士特定行為プロトコルに準じた救急救命処置について講義する。</p> <p>JPTECガイドラインに基づいた重症外傷時に於ける適切な処置・判断について講義する。</p> <p>なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。</p>
授業の目的 (意義)
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。</p>
関連する学科のDP
<p>救急救命士として必要な医学的な根拠に基づいた基礎技術を修得している。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「喉頭展開」など 標準テキスト改訂11版 P.360 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
2	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「挿入と位置確認」 標準テキスト改訂11版 P.361 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
3	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「気管挿管困難症への対応」 改訂11版 P.362 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
4	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「ビデオ喉頭鏡」 標準テキスト改訂11版 P.364 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
5	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「気管吸引」 標準テキスト改訂11版 P.367 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

6	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
7	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
8	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
9	「気管挿管（筆記・実技試験）」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管（筆記・実技試験）」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
10	「気管挿管（筆記・実技試験）」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管（筆記・実技試験）」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
11	「静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置（ALS）を修得する。	「静脈路確保と輸液を用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
12	「静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置（ALS）を修得する。	「静脈路確保と輸液を用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
13	「アドレナリンを使用した二次救命処置」 アドレナリンを使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「アドレナリンを用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
14	「アドレナリンを使用した二次救命処置」 アドレナリンを使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「アドレナリンを用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
15	「JPTEC の概念」 JPTEC の概念について理解する。	「JPTEC とは？」 JPTEC ガイドブック P.1～13 ・JPTEC の定義を説明できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
16	「JPTEC の概念」 JPTEC の概念について理解する。	「JPTEC とは？」 JPTEC ガイドブック P.1～13 ・JPTEC の基本的な処置・概念を説明できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
17	「状況評価・全身観察」 状況評価及び全身観察について修得する。	「状況評価・全身観察」 ガイドブック P.16～19 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
18	「状況評価・全身観察」 状況評価及び全身観察について修得する。	「状況評価・全身観察」 ガイドブック P.16～19 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

19	<p>「静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の隊活動」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
20	<p>「静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の隊活動」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
21	<p>「静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の隊活動」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
22	<p>「静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の隊活動」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
23	<p>「静脈路確保・薬剤投与（筆記試験）」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の筆記試験」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
24	<p>「静脈路確保・薬剤投与（実技試験）」</p> <p>静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置（ALS）と薬剤投与プロトコルを修得する。</p>	<p>「静脈路確保と薬剤投与の実技試験」</p> <p>・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
25	<p>「想定訓練 1」</p> <p>心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。</p>	<p>「薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム」</p> <p>・薬剤プロトコル及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
26	<p>「想定訓練 2」</p> <p>心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。</p>	<p>「薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム」</p> <p>・薬剤プロトコル及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
27	<p>「想定訓練 1」</p> <p>心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。</p>	<p>「薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム」</p> <p>・薬剤プロトコル及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>
28	<p>「想定訓練 3」</p> <p>心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。</p>	<p>「薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム」</p> <p>・薬剤プロトコル及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。</p>	<p>石河・大竹 廣崎・古谷</p>

42	「想定訓練 17」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「薬剤プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・薬剤プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
43	「想定訓練 18」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「薬剤プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・薬剤プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
44	「想定訓練 19」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「薬剤プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・薬剤プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
45	「想定訓練 20」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「薬剤プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・薬剤プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
46	「シナリオ実技試験 1」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
47	「シナリオ実技試験 2」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
48	「シナリオ実技試験 3」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
49	「想定訓練 21」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
50	「想定訓練 22」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
51	「想定訓練 23」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
52	「想定訓練 24」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及びJPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
53	「シナリオ実技試験 4」 交通事故事例などの想定された外傷シナリオの活動内容について修得する。	「JPTEC シナリオ実技試験」 ・JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
54	「シナリオ実技試験 5」 交通事故事例などの想定された外傷シナリオの活動内容について修得する。	「JPTEC シナリオ実技試験」 ・JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

68	「想定訓練 38」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
69	「想定訓練 39」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
70	「想定訓練 40」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
71	「想定訓練 41」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
72	「想定訓練 42」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
73	「総合想定訓練 1」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
74	「総合想定訓練 2」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
75	「総合想定訓練 3」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
76	「総合想定訓練 4」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
77	「総合想定訓練 5」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
78	「総合想定訓練 6」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
79	「総合想定訓練 7」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
80	「総合想定訓練 8」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷

81	「総合想定訓練 9」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
82	「総合想定訓練 10」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
83	「総合想定訓練 11」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
84	「総合想定訓練 12」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
85	「総合想定訓練 13」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
86	「総合想定訓練 14」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
87	「総合想定訓練 15」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
88	「総合想定訓練 16」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
89	「総合想定訓練 17」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
90	「総合想定訓練 18」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 廣崎・古谷
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：普通自動車免許及び高校・大学における心肺蘇生法教育より概略を把握する。 事後学習：スキルの維持・迅速性の向上を図るために継続的なトレーニングに努める。		
関連科目	「救急救命処置概論Ⅰ」⇒「シミュレーション実習Ⅰ」⇒「救急症候学Ⅰ～Ⅲ」⇒「疾病救急医学Ⅰ～Ⅴ」⇒「外傷救急医学Ⅰ～Ⅲ」⇒「シミュレーション実習Ⅱ」など		
その他 (履修者へのアドバイス等)			